

**「土地・家屋の管理と生活についての調査」
調査報告書**

調査について

先日は調査へのご協力をいただきありがとうございました。

本調査は、日南町に財をご所有の方々が管理する田、畑、山林、家などに関することや日常生活に関する考え方などをお伺いし、農地・山林・家屋の管理に関する施策に役立てる目的で実施しました。調査の結果、日南町に財を所有する方々の財に関する様々なことが分かってきました。現在も鋭意分析をしているところではありますが、本日は、これまで分かってきたことに関してご報告いたします。

調査概要

対象者

日南町に財をご所有で、かつ日南町にお住まいではない方 1113 人を対象としています。

調査実施日

1113 名に対し、郵送により調査票をお送りしました。

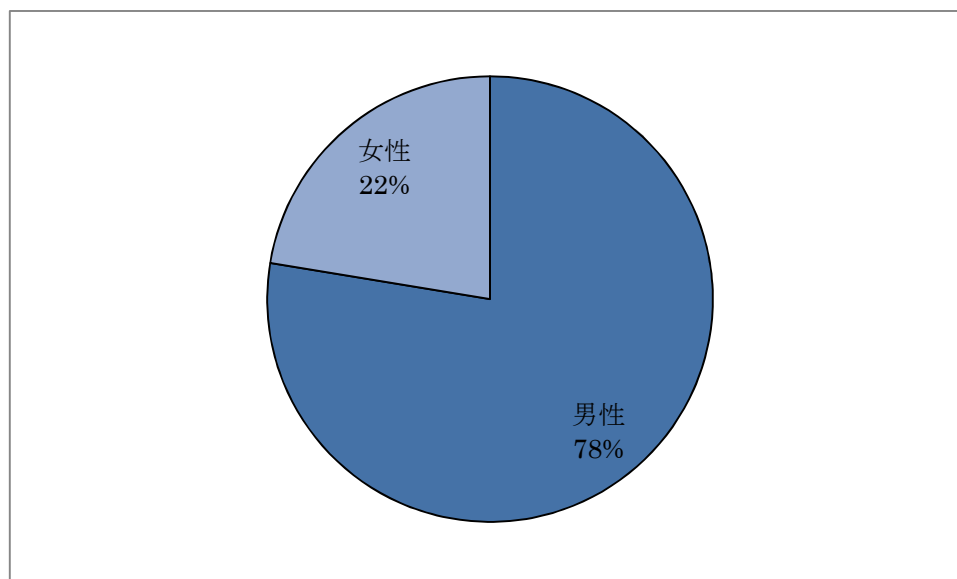
2 月 7 日に発送し 3 月までに調査票を回収しました。

回収数・回収率

日南町 1113 名からの回収数は 408 票、有効回収率は 37%となっております。

調査へのご協力誠にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

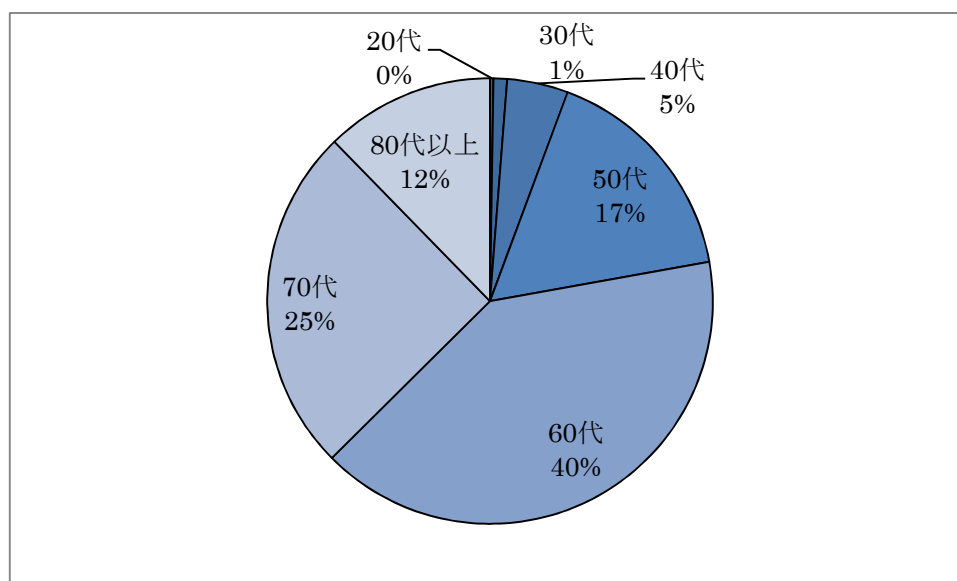
図1 性別



性別		
	度数	パーセント (%)
男性	315	77.6
女性	91	22.4
合計	406	100.0

図1は、回答者の性別の分布を示したグラフである。回答者のうち78%が「男性」であり、22%が「女性」である。この調査では各世帯で「財産の管理について詳しい方」に調査を依頼している。ここから、各家庭において財産管理は男性が主体となって行っている可能性がある。

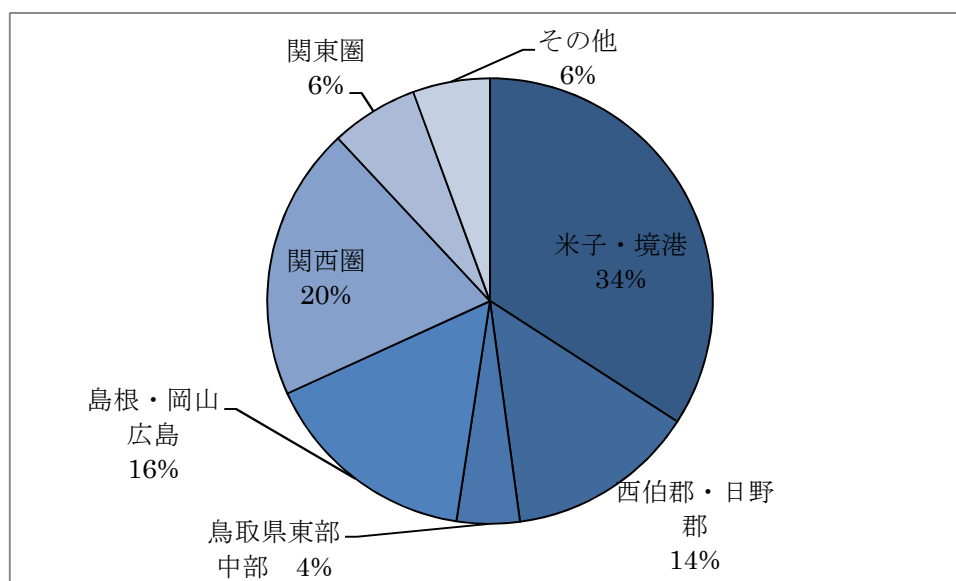
図2 年齢



年齢		
	度数	パーセント (%)
20代	1	0.2
30代	4	1.0
40代	18	4.4
50代	67	16.5
60代	164	40.4
70代	102	25.1
80代以上	50	12.3
合計	406	100.0

図2は、回答者の年齢の分布を示したグラフである。「60代」と答えた割合が最も大きく、全体の40%を占めている。次いで割合の大きい方から、「70代」、「50代」、「80代以上」と続く。40代以下が占める割合は全体の6%である。ここから、財の管理が60代以上の方々によって担われていることが分かる。

図3 現在居住地

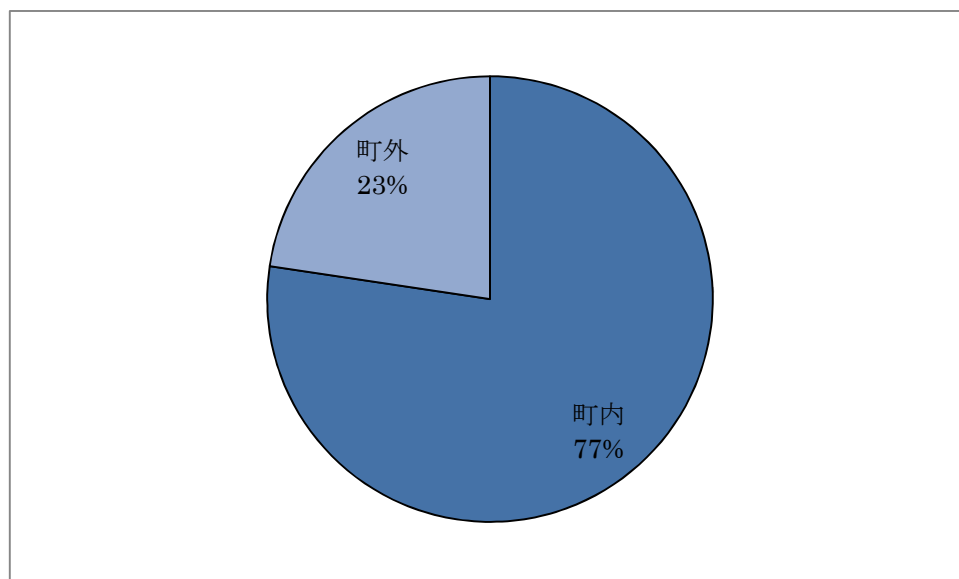


現在居住地

	度数	パーセント (%)
米子・境港	134	34.1
西伯郡・日野郡	54	13.7
鳥取県東部・中部	18	4.6
島根・岡山・広島	62	15.8
関西圏	78	19.8
関東圏	25	6.4
その他	22	5.6
合計	393	100.0

図3は、回答者の現在居住地を示したグラフである。「米子・境港」と回答した割合は全体の34%と最も大きい。さらに、「西伯郡・日野郡」、「鳥取県中東部・中部」を合わせると、回答者の52%が鳥取県内にお住まいであることがわかる。他方、「米子・境港」(34%)に次いで、「関西圏(大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良)」(20%)、「島根・岡山・広島」(16%)の割合が大きい。

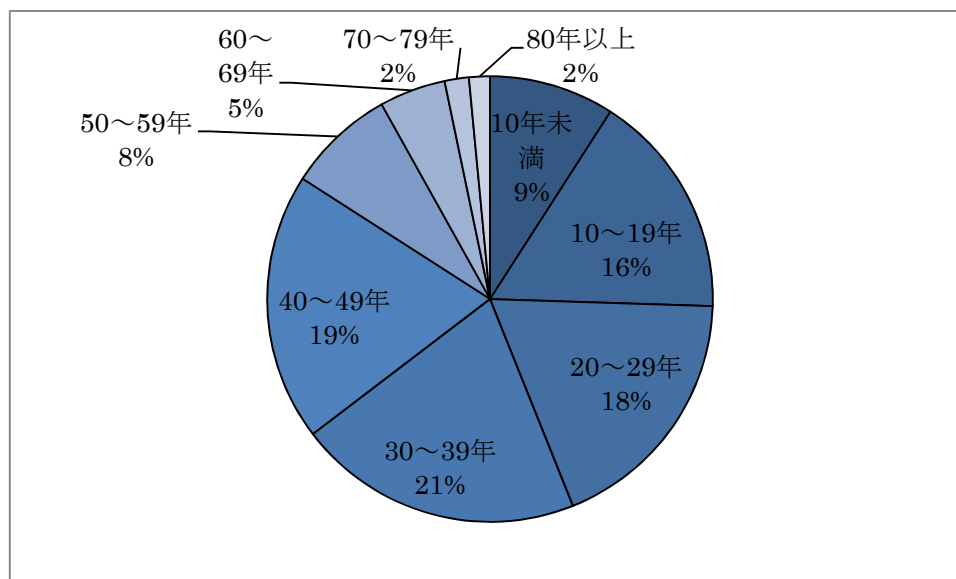
図4 出身地



出身地		
	度数	パーセント (%)
町内	311	77.4
町外	91	22.6
合計	402	100.0

図4は、回答者の出身地を示したグラフである。日南町内の出身者が77%を占めている。他方で、町外の出身者の割合は23%である。ここから、回答者の8割は町内の出身であることが分かる。

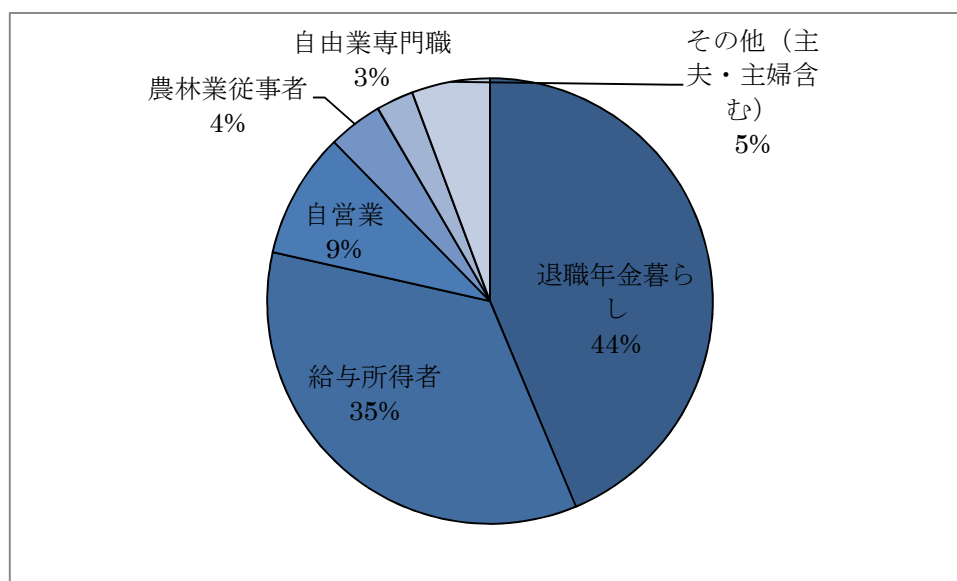
図5 居住年数



居住年数			
	度数	パーセント (%)	
10年未満	36	9.1	
10~19年	65	16.4	
20~29年	73	18.4	
30~39年	82	20.7	
40~49年	77	19.4	
50~59年	31	7.8	
60~69年	19	4.8	
70~79年	7	1.8	
80年以上	6	1.5	
合計	396	100.0	

図5は、回答者の居住年数を示したグラフである。現在の居住地に住み始めてから「30~39年」経つと回答した割合がもっとも大きく、全体の21%を占めている。次いで、現在の居住地に住み始めてから「40~49年」経つと回答した割合が大きく、全体の19%を占めている。さらに、現在の居住地に住み始めてから「20~29年」が18%、「10年~19年」が16%となっている。

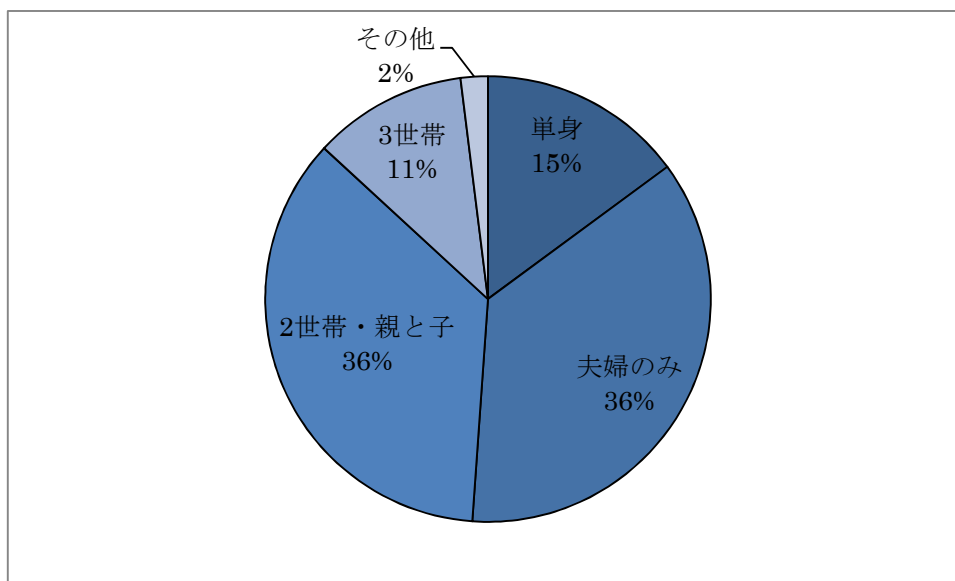
図6 職業



職業		
	度数	パーセント (%)
退職年金暮らし	177	43.7
給与所得者	141	34.8
自営業	37	9.1
農林業従事者	16	4.0
自由業専門職	11	2.7
その他（主夫・主婦含む）	23	5.7
合計	405	100.0

図6は、回答者の職業の分布を示したグラフである。「退職後あるいは年金暮らし」と回答した方の割合が大きく、全体の44%を占めている。他方で、「給与所得者」の割合は35%となっている。また、「自営業」の割合は9%である。ここから、財産管理者の収入源のほとんどは年金、給与、自営業によるものである可能性が高いといえる。

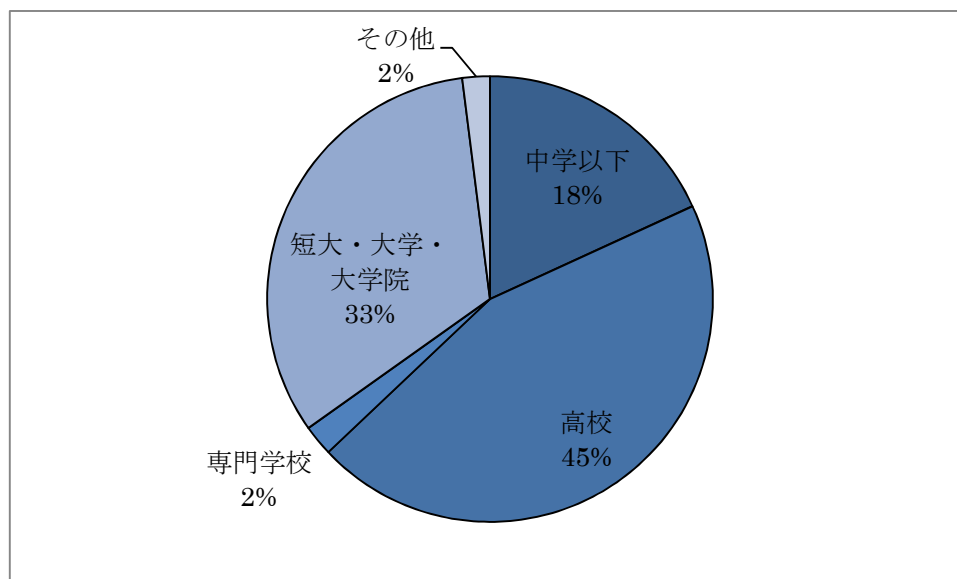
図7 家族構成



家族構成		
	度数	パーセント (%)
単身	60	14.9
夫婦のみ	146	36.2
2世帯・親と子	144	35.7
3世帯	45	11.2
その他	8	2.0
合計	403	100.0

図7は、回答者の家族構成を示したグラフである。割合が大きいものから順に、「夫婦のみ」が36%、「2世帯・親と子」が36%、「単身」が15%、「3世帯」が11%となっている。

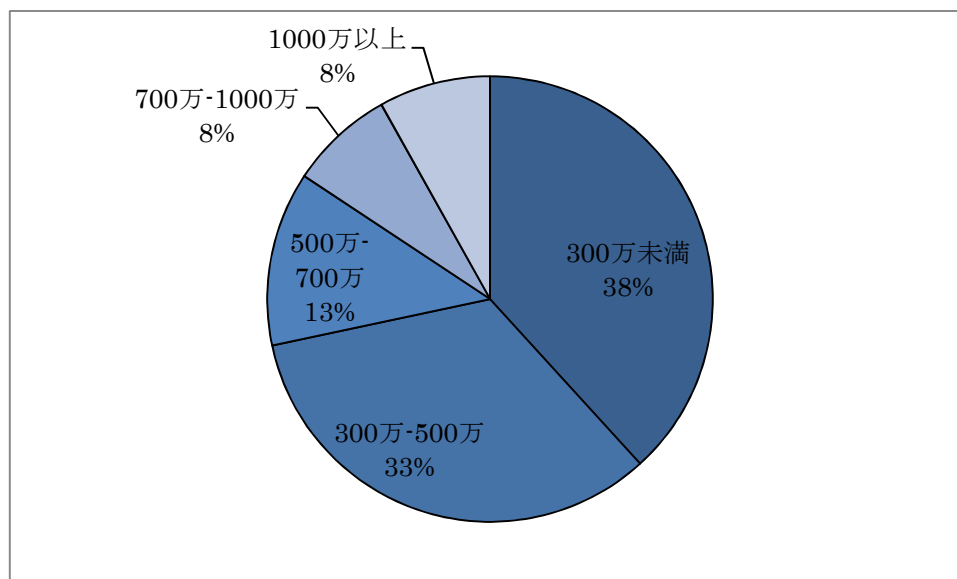
図8 教育歴



学歴		
	度数	パーセント (%)
中学以下	73	18.2
高校	180	44.8
専門学校	9	2.2
短大・大学・大学院	132	32.8
その他	8	2.0
合計	402	100.0

図8は、回答者の教育歴の分布を示したグラフである。最も割合が大きいのは「高校」(45%)である。

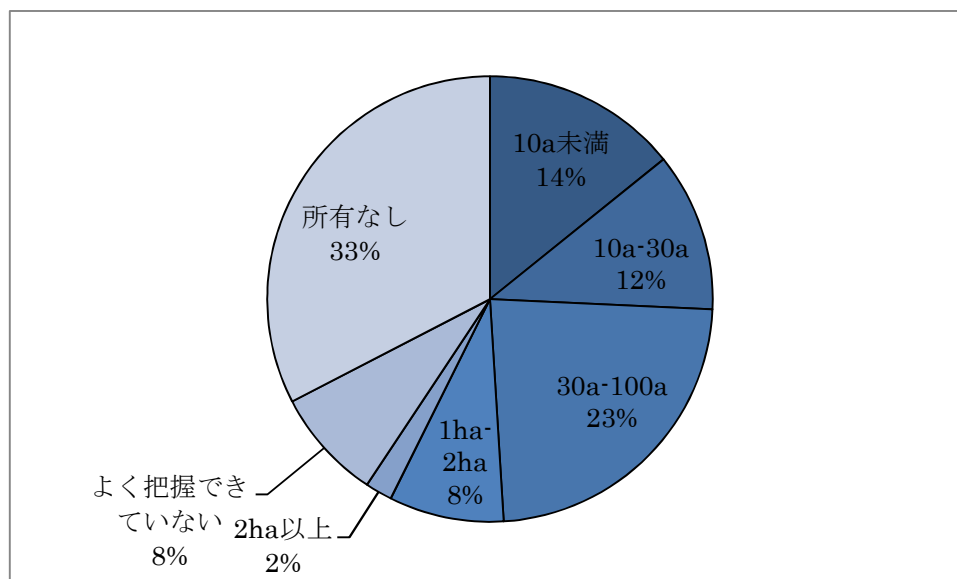
図9 世帯収入



世帯収入		
	度数	パーセント (%)
300万円未満	151	38.2
300万円-500万円	132	33.4
500万円-700万円	50	12.7
700万円-1000万円	30	7.6
1000万円以上	32	8.1
合計	395	100.0

図9は、回答者の世帯収入を示したグラフである。「300万円未満」の世帯の割合が最も大きく、全体の38%を占めている。次いで、割合の大きい回答から順に「300万円以上500万円未満」(33%)、「500万円以上700万円未満」(13%)となっている。

図10 農地所有面積

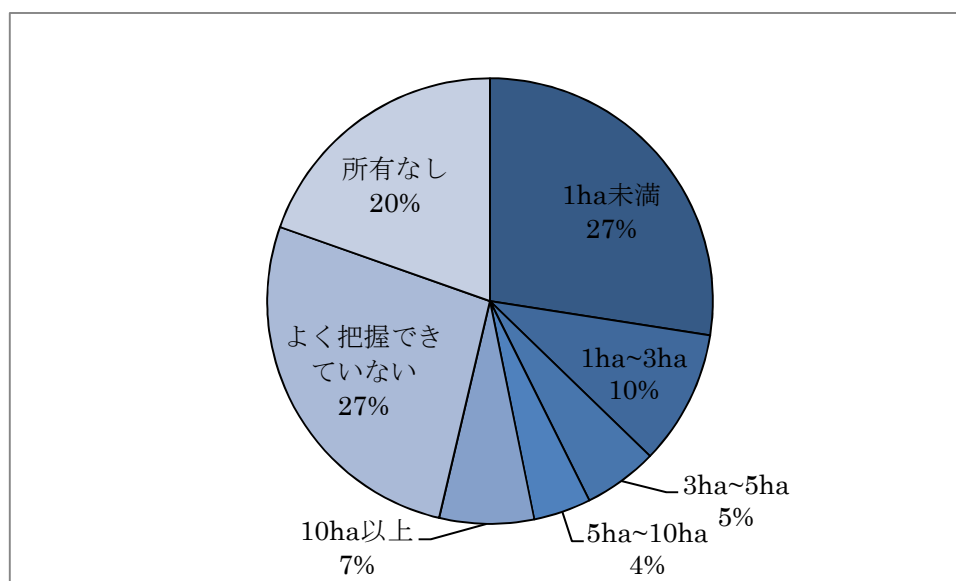


農地所有

	度数	パーセント (%)
10a未満	58	14.2
10a-30a	47	11.5
30a-100a	95	23.3
1ha-2ha	34	8.3
2ha以上	8	2.0
よく把握できていない	33	8.1
所有なし	133	32.6
合計	408	100.0

図10は、農地の保有面積の分布を示したグラフである。回答者の67%は農地を保有していることがわかる。その内訳は、割合が大きいものから順に、「30a~100a」の所有が23%、「10a未満」の所有が14%、「10a~30a」の所有は12%である。また、「1ha~2ha」の所有は4%、「2ha以上」の所有は2%に留まっている。他方で、回答者の33%は農地を所有していない。ここから、回答者の約7割が日南町に農地を所有していることがわかる。また、回答者の農地の保有面積は、おおむね1ha未満であると考えられる。

図 1 1 人工林所有面積

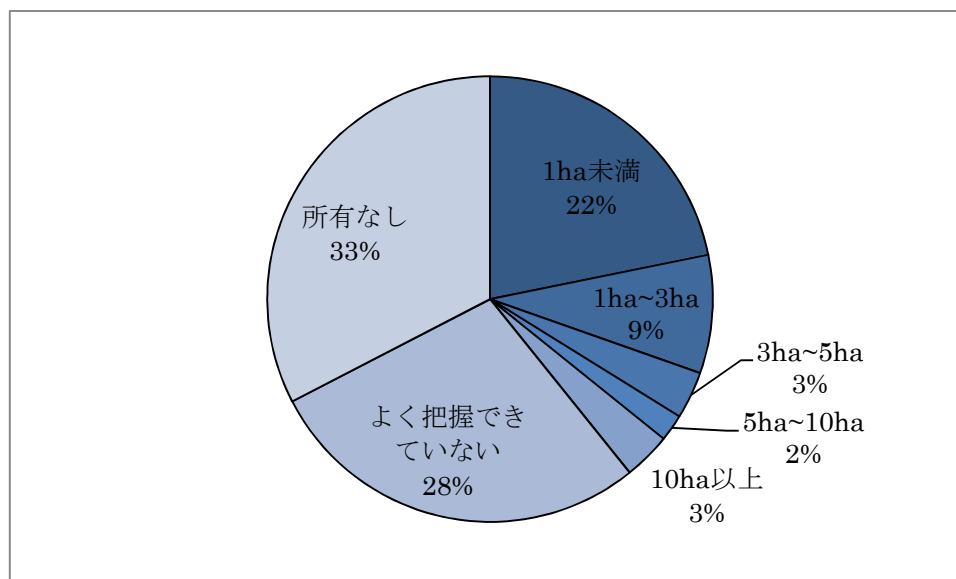


人工林所有

	度数	パーセント (%)
1ha未満	112	27.5
1ha~3ha	40	9.8
3ha~5ha	22	5.4
5ha~10ha	17	4.2
10ha以上	28	6.9
よく把握できていない	109	26.7
所有なし	80	19.6
合計	408	100.0

図 1 1 は、人工林（スギ、ヒノキなど）の所有面積の分布を示したグラフである。回答者の 80%が人工林を所有していることが分かる。所有面積ごとに回答の割合を見ると、「1ha 未満」の所有が 27%、「1ha~3ha」の所有が 10%、3ha 以上の所有が合わせて 16%である。また、回答者の 27%が「（面積を）よく把握できていない」と回答している。他方で、回答者の 20%は人工林を所有していない。ここから、回答者の約 8 割は、日南町に人工林を所有していることがわかる。また、回答者の人工林の所有は、3ha 未満の所有が中心であることが分かる。

図 1 2 雑木林所有面積

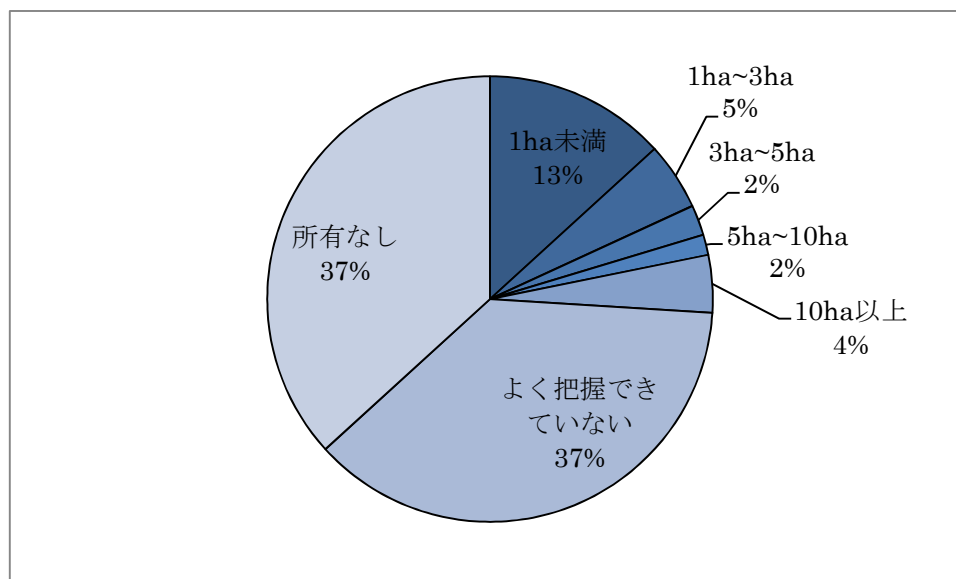


雑木林所有

	度数	パーセント (%)
1ha未満	89	21.8
1ha~3ha	35	8.6
3ha~5ha	14	3.4
5ha~10ha	8	2.0
10ha以上	14	3.4
よく把握できていない	115	28.2
所有なし	133	32.6
合計	408	100.0

図 1 2 は、雑木林の所有面積の分布を示したグラフである。回答者の 67%が雑木林を所有していることが分かる。所有面積ごとに回答の割合を見ると、「1ha 未満」の所有が 22%、「1ha~3ha」の所有が 9%、3ha 以上の所有は合わせて 8%である。また、回答者の 28%が「よく把握できていない」と回答している。他方、回答者の 33%が雑木林を所有していない。ここから、回答者の約 7 割は、日南町内に雑木林を所有していることが分かる。また、回答者の約 3 割は、自身が所有する雑木林の面積を十分に把握していないことが分かる。

図 1 3 共有林所有面積

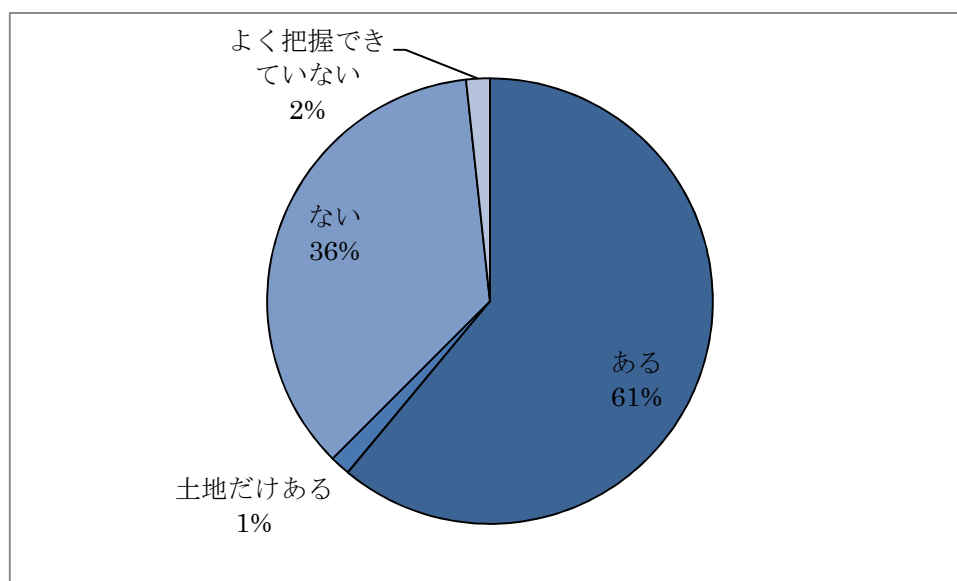


共有林所有

	度数	パーセント (%)
1ha未満	54	13.2
1ha~3ha	20	4.9
3ha~5ha	9	2.2
5ha~10ha	6	1.5
10ha以上	17	4.2
よく把握できていない	152	37.3
所有なし	150	36.8
合計	408	100.0

図 1 3 は、共有林の所有面積の分布を示したグラフである。回答者の 63%が共有林を所有している。所有面積ごとに回答の割合を見ると、「1ha 未満」の所有が 13%、「1ha~3ha」の所有が 5%、3ha 以上の所有は合わせて 8%となっている。また、回答者の 37%が「よく把握できていない」と回答している。他方で、回答者の 37%は共有林を所有していない。ここから、回答者の約 6 割は日南町内に共有林を所有していることがわかる。また、回答者の約 4 割は、自身が所有する共有林の面積を十分に把握していないことが分かる。

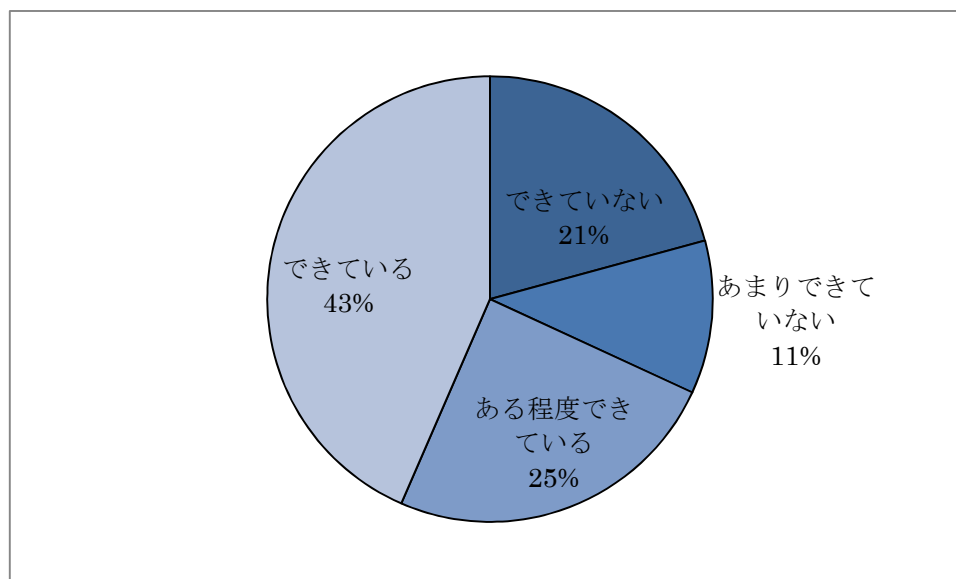
図14 家屋の所有



家屋所有		
	度数	パーセント (%)
ある	249	61.0
土地だけある	6	1.5
ない	146	35.8
よく把握できていない	7	1.7
合計	408	100.0

図14は、回答者が日南町に家屋を所有しているかどうかを示したグラフである。回答者のうち、61%が日南町に家屋を所有していることが分かる。他方で、36%は家屋を所有していない。また、建物は無いが敷地のみ保有していると回答した割合は1%である。ここから、回答者の約6割が町内にある家屋をそのままにしていることが分かる。

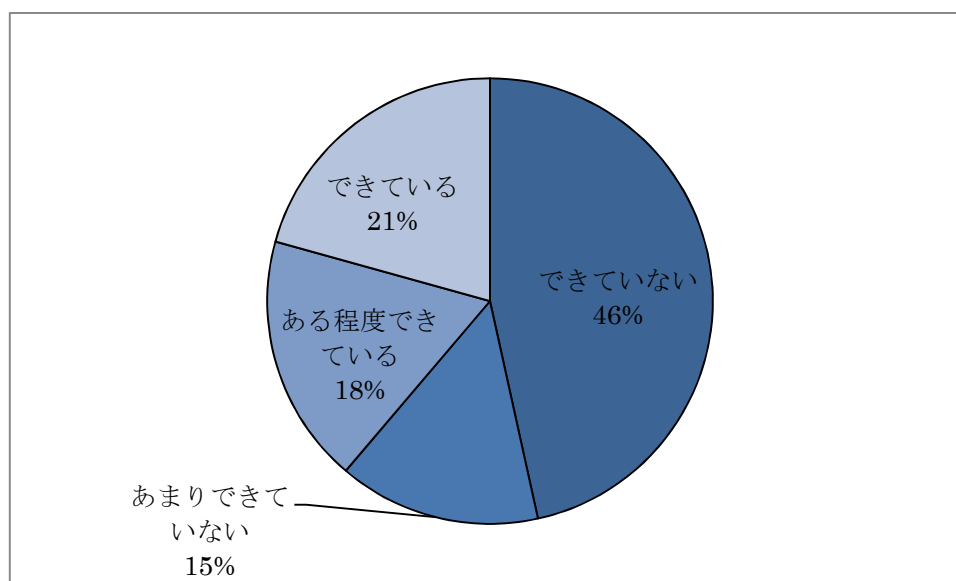
図 1 5 田の管理



田の管理		
	度数	パーセント (%)
できていない	43	20.8
あまりできていない	23	11.1
ある程度できている	51	24.6
できている	90	43.5
合計	207	100.0

図 1 5 は、田を所有していると答えた方の田の管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、管理が「できている」(43%) である。「できている」と「ある程度できている」を合わせると、68%の回答者が、田の管理ができていることになる。他方で、管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、その割合は 32%となる。ここから、回答者の約 6 割は田の管理ができていることが分かる。

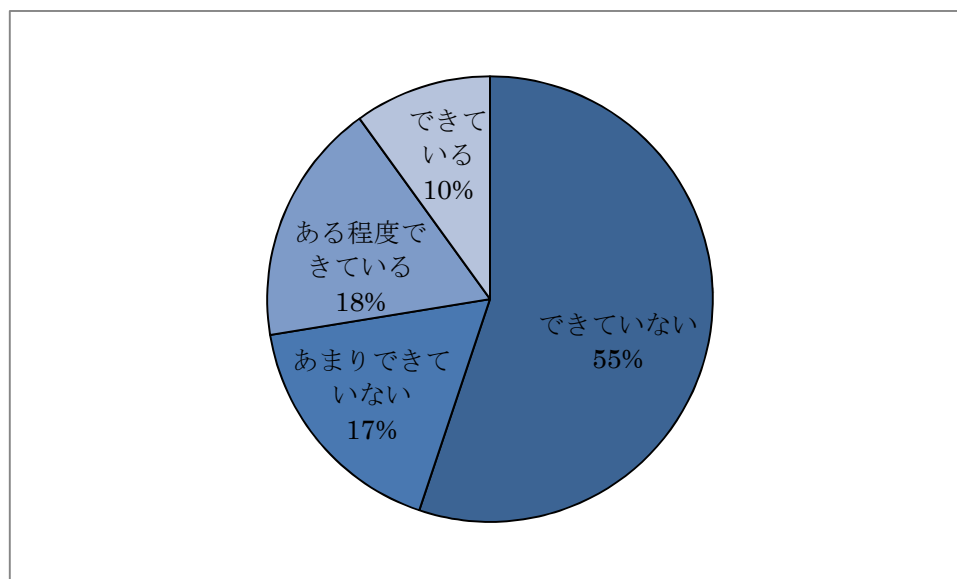
図16 畑の管理



	度数	パーセント (%)
できていない	108	46.6
あまりできていない	34	14.7
ある程度できている	42	18.1
できている	48	20.7
合計	232	100.0

図16は、畑を所有していると答えた方の畑の管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、管理が「できていない」(46%)である。管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、61%の回答者は畑を管理できていないことになる。他方で、管理が「できている」、「ややできている」と回答した割合は39%である。ここから、回答者の約6割は、田の管理が十分にできていないことが分かる。

図 1 7 人工林の管理

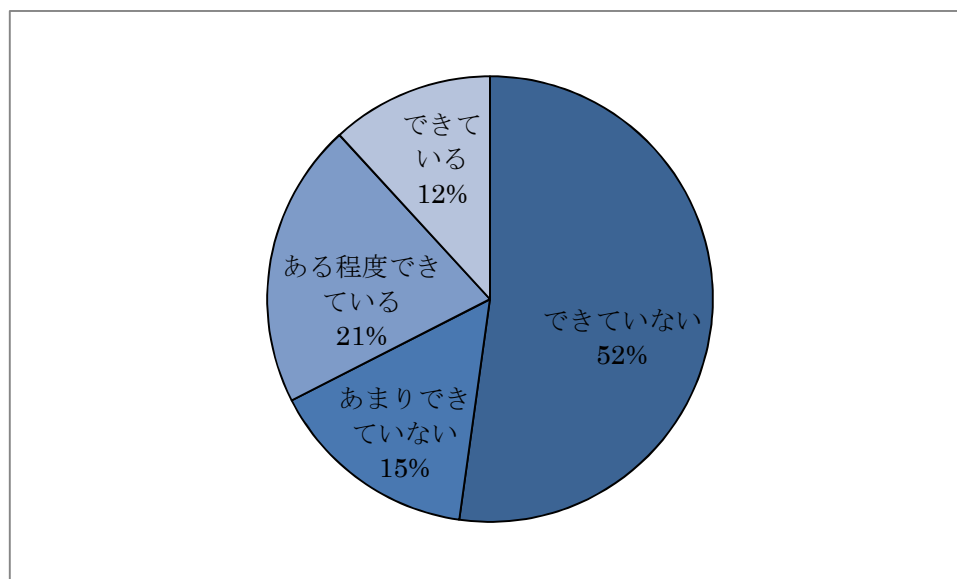


人工林の管理

	度数	パーセント (%)
できていない	166	55.1
あまりできていない	52	17.3
ある程度できている	53	17.6
できている	30	10.0
合計	301	100.0

図 1 7 は、人工林を所有していると答えた方の人工林の管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、管理が「できていない」(55%) である。また、管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、72%となる。他方で、管理が「できている」、「ややできている」と回答した割合は 28%である。ここから、回答者の約 7 割は、人工林を十分に管理できていないことが分かる。

図18 共有林の管理

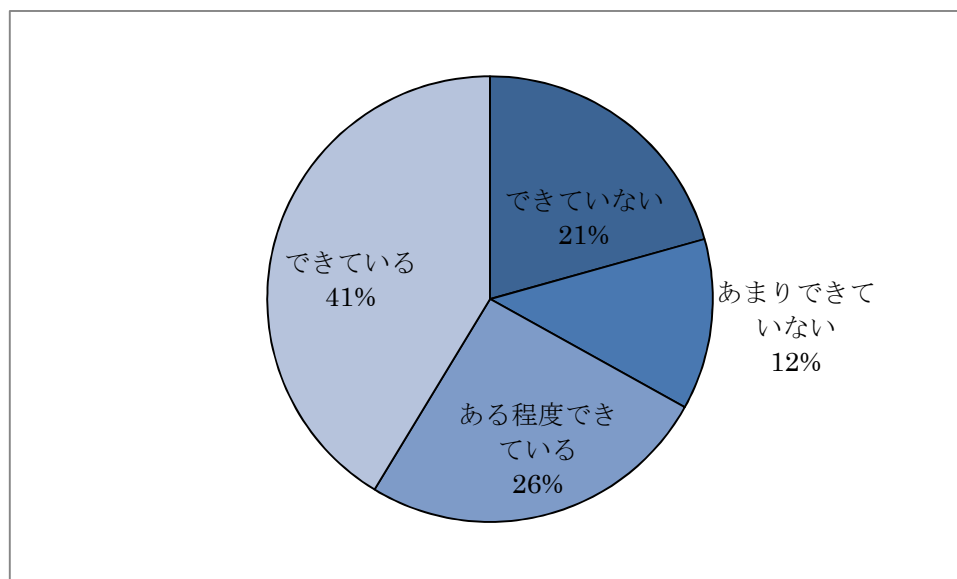


共有林の管理

	度数	パーセント (%)
できていない	106	52.2
あまりできていない	31	15.3
ある程度できている	42	20.7
できている	24	11.8
合計	203	100.0

図18は、共有林を所有していると答えた方の共有林の管理状況を示したグラフである。最も多い回答は管理が「できていない」(52%)である。管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると67%の回答者が共有林を管理できていないことになる。他方で、管理が「できている」、「ややできている」と回答した割合は33%である。ここから、回答者の約7割は、共有林を十分に管理できていないことが分かる。

図19 家屋の管理

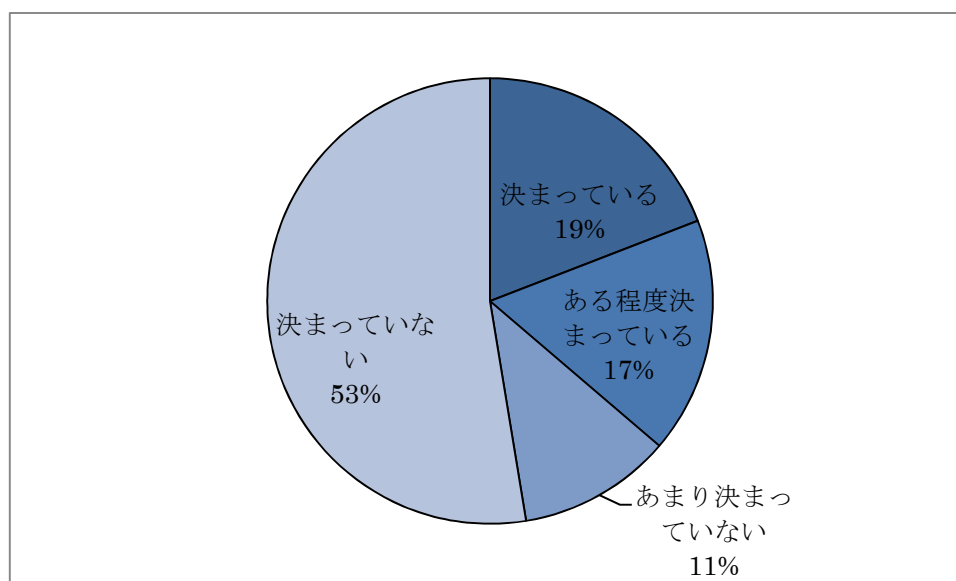


家屋の管理

	度数	パーセント (%)
できていない	50	20.7
あまりできていない	30	12.4
ある程度できている	62	25.6
できている	100	41.3
合計	242	100.0

図19は、アンケートで家屋を所有していると答えた方の家屋の管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、管理が「できている」(41%)である。また、管理が「できている」と「ある程度できている」を合わせると、67%の回答者が家屋を管理できていることになる。他方で、管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、その割合は33%となる。ここから、回答者の約7割は家屋の管理ができていることが分かる。

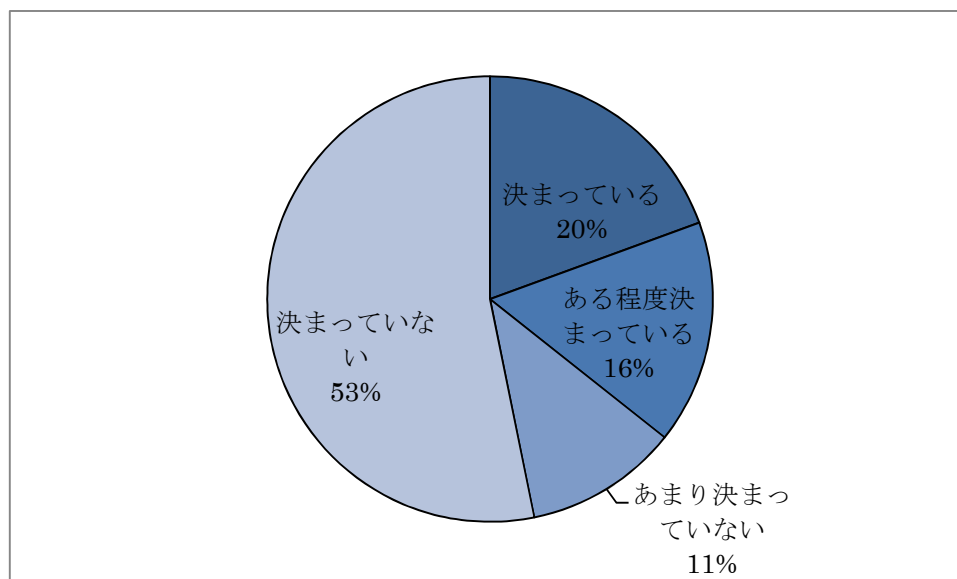
図 20 農地の継承者



農地継承		
	度数	パーセント (%)
決まっている	48	19.1
ある程度決まっている	43	17.1
あまり決まっていない	28	11.2
決まっていない	132	52.6
合計	251	100.0

図 20 は、農地の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、農地の継承者が「決まっていない」(53%)である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、64%となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と回答した割合は 36%である。ここから、半数以上の回答者は、所有する農地の後継者が決まっていないことが分かる。

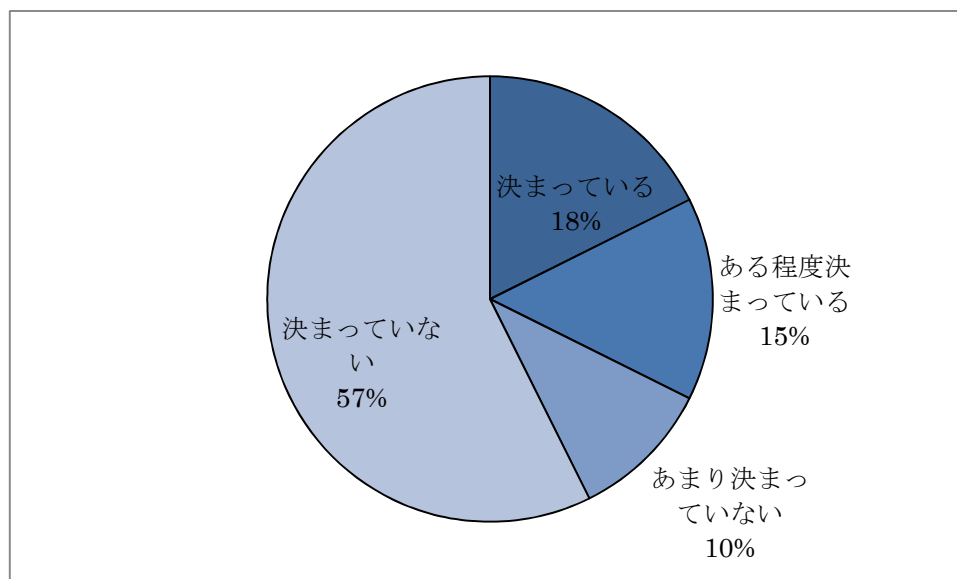
図 2 1 山林の継承者



山林継承		
	度数	パーセント (%)
決まっている	61	19.4
ある程度決まっている	51	16.2
あまり決まっていない	35	11.1
決まっていない	167	53.2
合計	314	100.0

図 2 1 は、山林の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、山林の継承者が「決まっていない」(53%)である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、64%となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と回答した割合は 36%である。ここから、回答者の約 6 割は、所有する山林の後継者が決まっていないことが分かる。

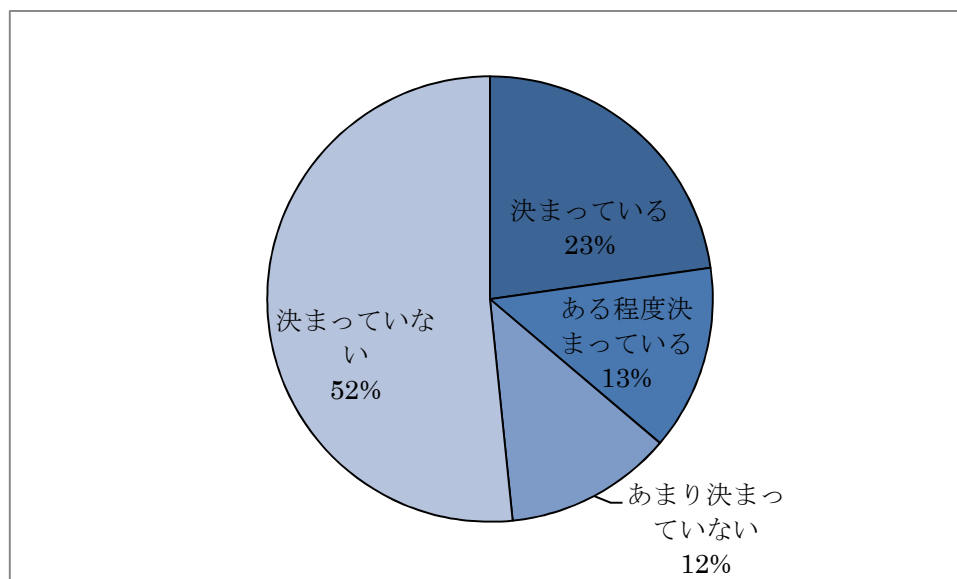
図 2 2 共有林の継承者



共有林継承		
	度数	パーセント (%)
決まっている	36	17.6
ある程度決まっている	30	14.7
あまり決まっていない	21	10.3
決まっていない	117	57.4
合計	204	100.0

図 2 2 は、共有林の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、共有林の継承者が「決まっていない」(57%) である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、その割合は 67% となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と答えた割合は 33% である。ここから、回答者の約 7 割は、所有する共有林の後継者が決まっていないことが分かる。

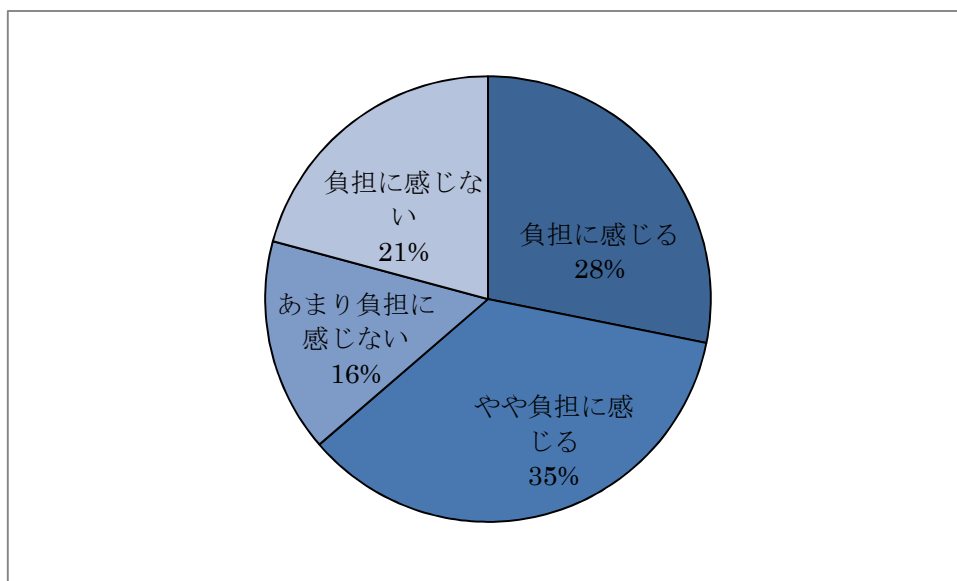
図 2 3 家屋の継承者



家屋継承		
	度数	パーセント (%)
決まっている	56	22.8
ある程度決まっている	33	13.4
あまり決まっていない	30	12.2
決まっていない	127	51.6
合計	246	100.0

図 2 3 は、家屋の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、家屋の継承者が「決まっていない」(52%)である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、その割合は 64%となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と答えた割合は 36%である。ここから、回答者の約 6 割は、所有する家屋の後継者が決まっていないことが分かる。

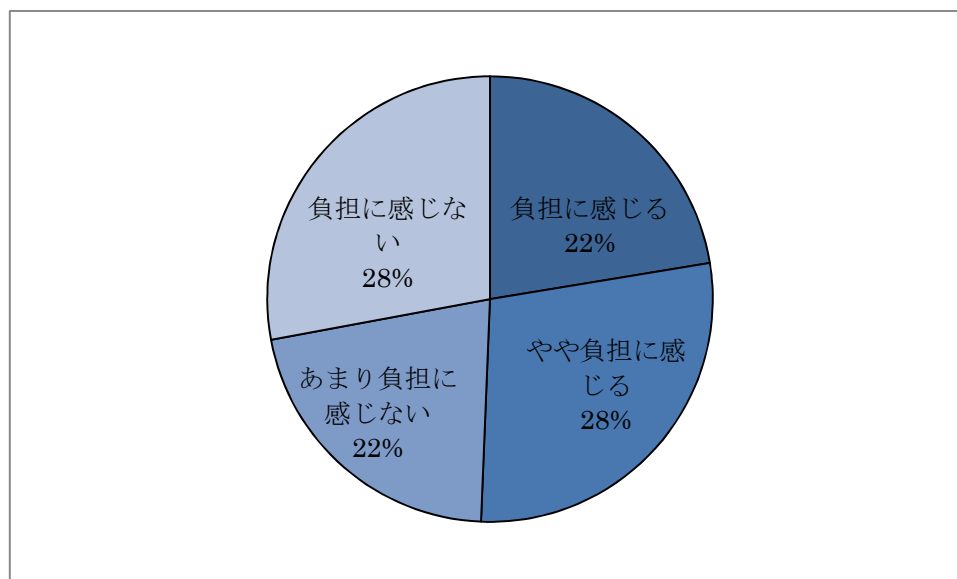
図 2 4 農地に対する金銭的・精神的負担感



農地負担		
	度数	パーセント (%)
負担を感じる	69	28.2
やや負担を感じる	87	35.5
あまり負担に感じない	38	15.5
負担に感じない	51	20.8
合計	245	100.0

図 2 4 は、農地を管理することに対して金銭的、精神的な負担を感じている人の割合を示したグラフである。「やや負担を感じる」と回答した割合が最も大きく、35%である。「負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合わせると、その割合は 63%となる。他方で、「負担に感じない」、「あまり感じない」と回答した割合は 37%である。ここから、回答者の約 6 割が、農地を管理することに負担を感じていることが分かる。

図 2 5 山林に対する金銭的・精神的負担感

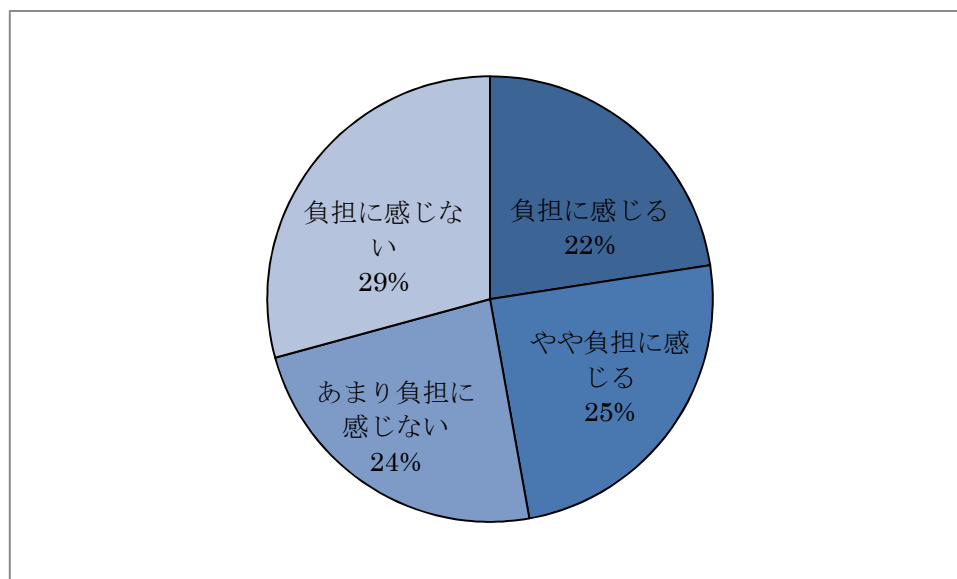


山林負担

	度数	パーセント (%)
負担を感じる	69	22.4
やや負担を感じる	87	28.2
あまり負担に感じない	66	21.4
負担に感じない	86	27.9
合計	308	100.0

図 2 5 は、個人所有の山林を管理することに対して金銭的、精神的な負担を感じている人の割合を示したグラフである。最も割合の大きい回答は、「やや負担を感じる」(28%)と「負担に感じない」(28%)である。「負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合わせると、その割合は 50%になる。他方で、「負担に感じない」、「あまり感じない」と回答した割合をあわせて 50%である。ここから、半数の回答者は、山林を管理することに負担を感じていることが分かる。

図 2 6 共有林に対する金銭的・精神的負担感

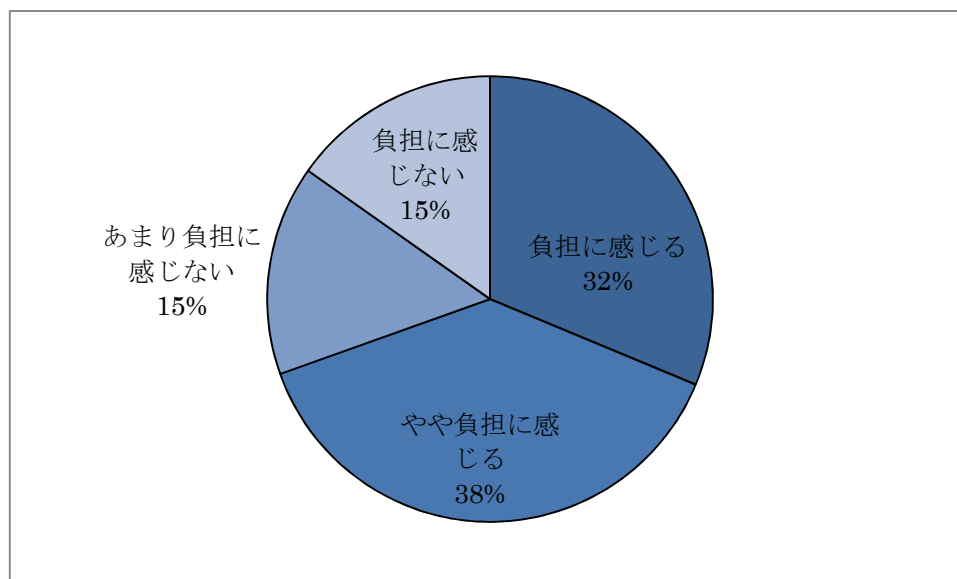


共有林負担

	度数	パーセント (%)
負担を感じる	44	22.6
やや負担を感じる	48	24.6
あまり負担に感じない	46	23.6
負担に感じない	57	29.2
合計	195	100.0

図 2 6 は、共有林を管理することに対して金銭的、精神的な負担を感じている人の割合を示したグラフである。「負担に感じない」と回答した割合が最も大きく、29%である。「負担に感じない」、「あまり感じない」を合わせると、その割合は 53%となる。他方で、負担を「感じる」と「やや感じる」と回答した割合をあわせて 47%である。ここから、半数近くの回答者は、共有林を管理することに負担を感じていることが分かる。

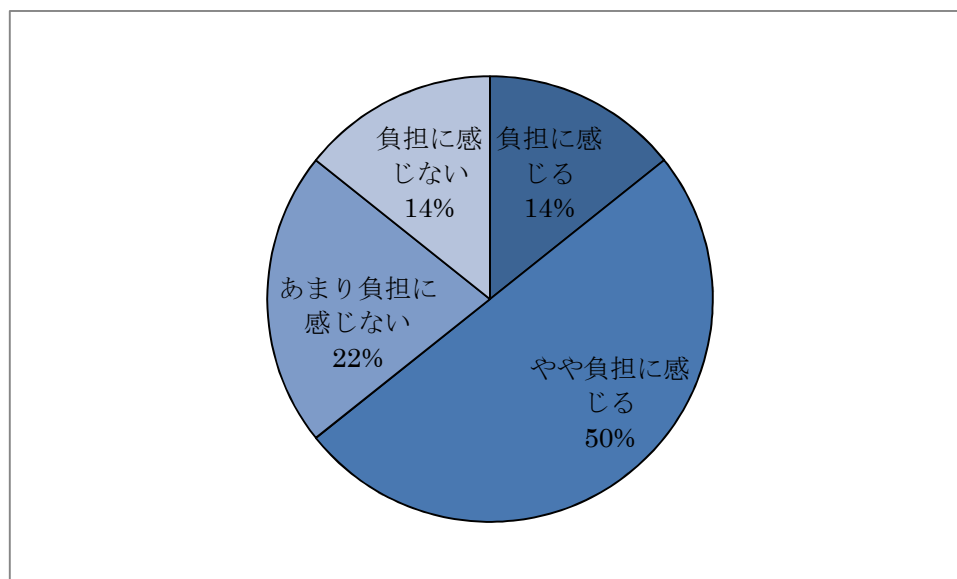
図 2 7 家屋に対する金銭的・精神的負担感



家屋負担		
	度数	パーセント (%)
負担を感じる	76	31.3
やや負担を感じる	93	38.3
あまり負担に感じない	37	15.2
負担に感じない	37	15.2
合計	243	100.0

図 2 7 は、家屋を管理することに対して金銭的、精神的な負担を感じている人の割合を示したグラフである。「やや負担を感じる」と回答した割合が最も大きく、38%である。「負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合わせると、その割合は 70%となる。他方で、「負担に感じない」、「あまり感じない」と回答した割合をあわせて 30%である。ここから、回答者の約 7 割が、家屋を管理することに負担を感じていることが分かる。

図 2 8 賃貸家屋に対する金銭的・精神的負担感

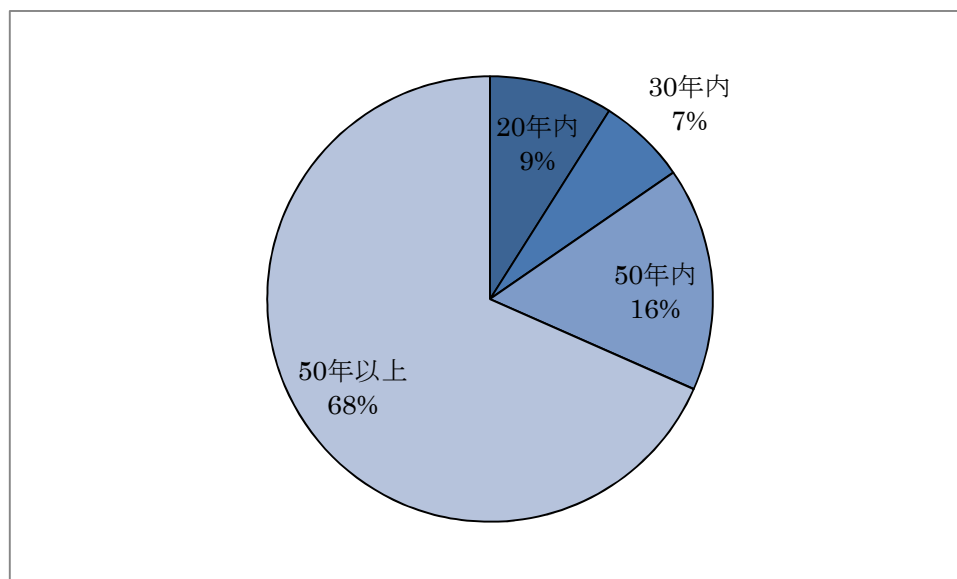


賃貸家屋負担

	度数	パーセント (%)
負担を感じる	2	9.1
やや負担を感じる	7	36.4
あまり負担に感じない	3	31.8
負担に感じない	2	22.7
合計	22	100.0

図 2 8 は、賃貸家屋を管理することに対して金銭的、精神的な負担を感じている人の割合を示したグラフである。「やや負担を感じる」と回答した割合が最も大きく、50%である。「負担を感じる」と「やや負担を感じる」を合わせると、その割合は 64%となる。他方で、「負担に感じない」、「あまり感じない」と回答した割合をあわせて 36%である。ここから、回答者の約 6 割が、町内の賃貸家屋の管理を負担に感じていることが分かる。

図 2 9 家屋築年数

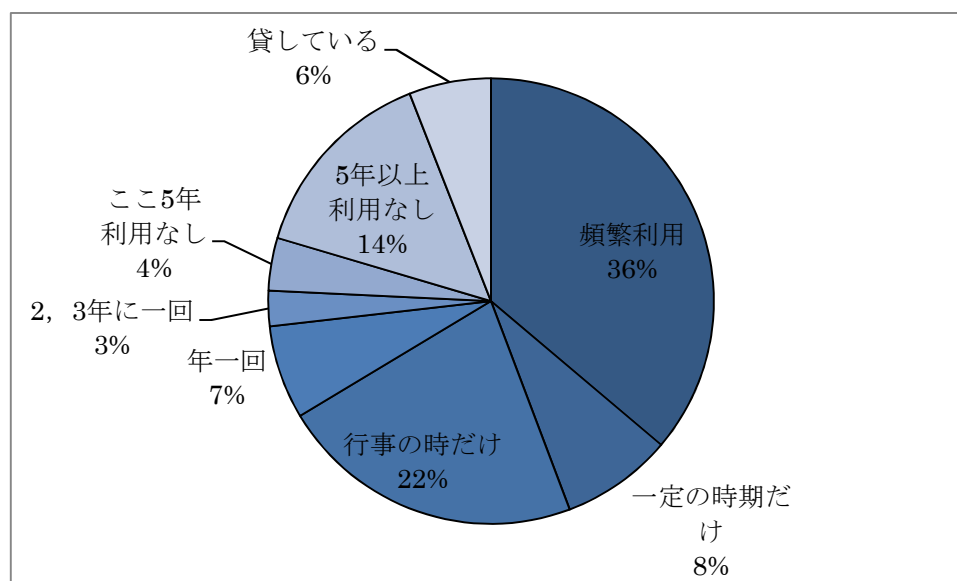


家屋の築年数

	度数	パーセント (%)
20年内	21	9.0
30年内	15	6.4
50年内	38	16.2
50年以上	160	68.4
合計	234	100.0

図 2 9 は、家屋の築年数を示したグラフである。「築 50 年以上」と回答した割合が最も大きく、68%である。次いで割合の大きいものから順に、「築 50 年内」が 16%、「築 20 年内」が 9%、「築 30 年内」が 7%である。ここから、回答者が所有している家屋の約 7 割が、築 50 年以上経っているものであることが考えられる。

図30 家屋利用頻度

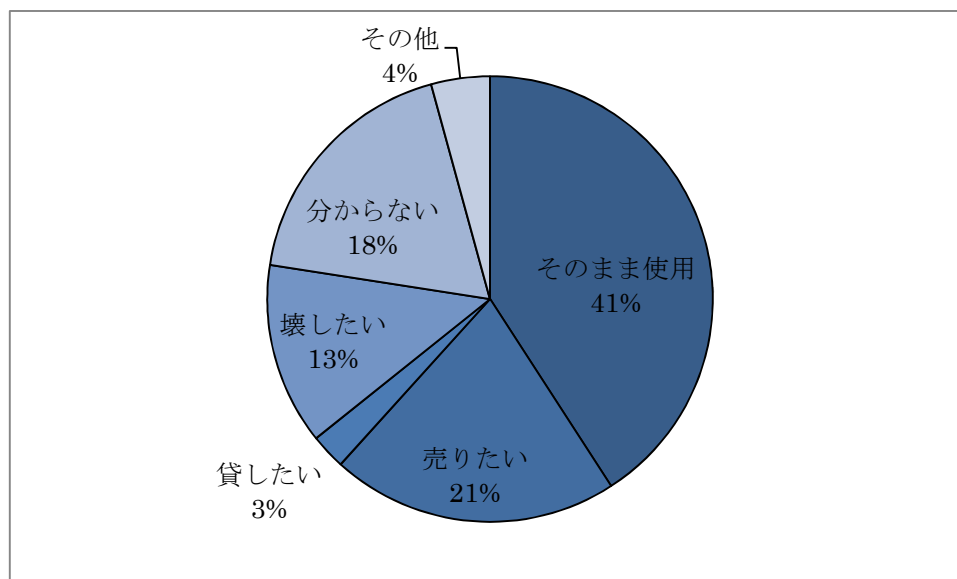


家屋利用頻度

	度数	パーセント (%)
頻繁利用	85	36.2
一定の時期だけ	19	8.1
行事の時だけ	52	22.1
年一回	16	6.8
2, 3年に一回	6	2.6
ここ5年利用なし	9	3.8
5年以上利用なし	34	14.5
貸している	14	6.0
合計	235	100.0

図30は、家屋の利用頻度を示したグラフである。最も多い回答は、「頻繁に利用している」(36%)である。次いで割合の大きいものから順に、「行事のときだけ利用している」が22%、「5年以上利用していない」が14%である。また、6%の回答者が「貸している」と回答している。

図 3 1 家屋についての今後の意向

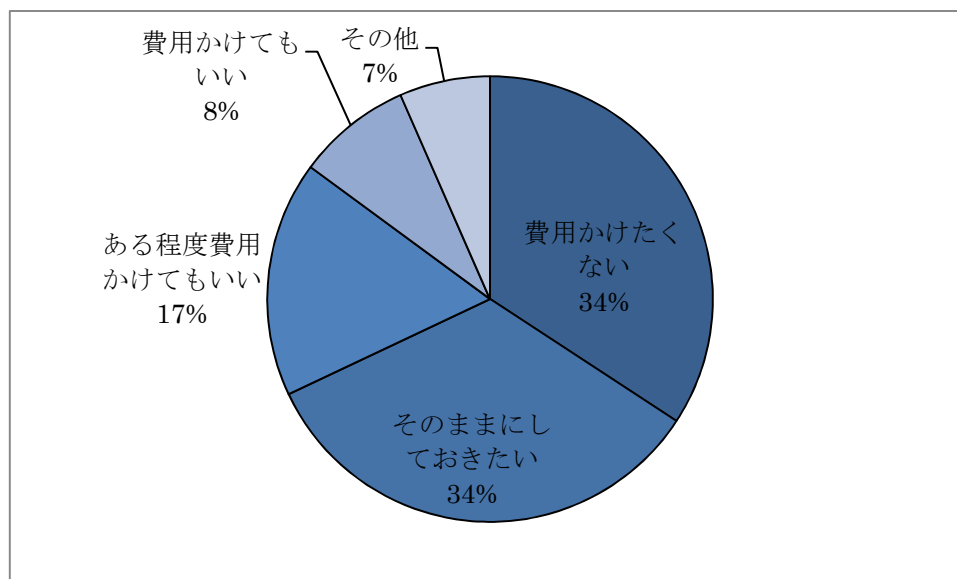


家屋についての今後の意向

	度数	パーセント (%)
そのまま使用	96	40.9
売りたい	49	20.9
貸したい	6	2.6
壊したい	31	13.2
分からない	43	18.3
その他	10	4.3
合計	235	100.0

図 3 1 は、日南町に所有している家屋を今後どのように扱いたいかにあつての回答の分布を示したグラフである。最も多い回答は、「そのまま使用したい」(41%)である。次いで割合の大きいものから順に、「売りたい」が 21%、「分からない」が 18%である。

図 3 2 老朽化家屋の処分

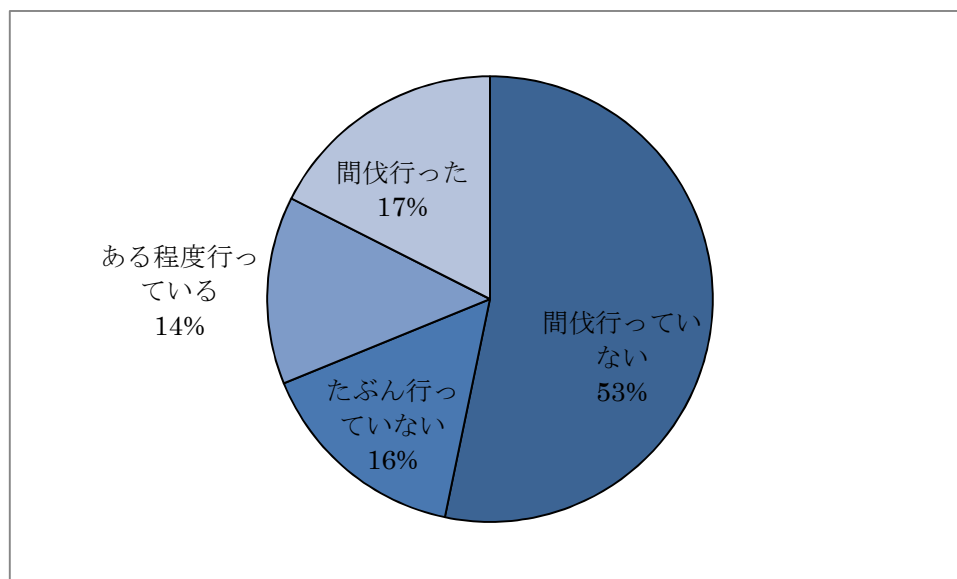


老朽化家屋の処分

	度数	パーセント (%)
費用かけたくない	78	34.2
そのままにしておきたい	77	33.8
ある程度費用かけてもいい	39	17.1
費用かけてもいい	19	8.3
その他	15	6.6
合計	228	100.0

図 3 2 は、老朽化した家屋の処分についての回答の分布を示したグラフである。「費用をかけたくない」と回答した割合は 34%であり、最も大きい。次いで、回答者の 34%が「迷惑をかけていないのであれば、そのままにしておきたい」と回答している。他方で、「費用をかけてもいい」、「ある程度なら費用をかけてもいい」と回答した割合は 29%である。ここから、回答者の約 7 割は、家屋を処分することに対して積極的に考えていない傾向があることが分かる。

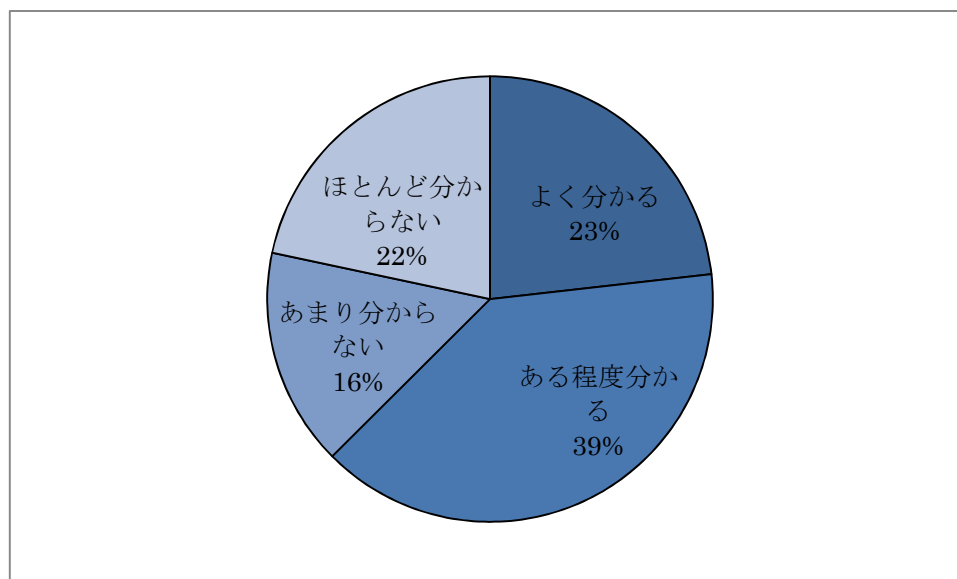
図 3 3 人工林の間伐



間伐		
	度数	パーセント (%)
間伐行っていない	164	53.2
たぶん行っていない	48	15.6
ある程度行っている	42	13.6
間伐行った	54	17.5
合計	308	100.0

図 3 3 は、山林（私有人工林と共有林）の所有者のうち、この 10 年以内に間伐を行った方の割合を示している。最も多い回答は、間伐を「行っていない」（53%）である。間伐を「行っていない」と「たぶん行っていない」を合わせると、69%の回答者はこの 10 年間に間伐を行っていないことになる。他方で、間伐を「行った」、「ある程度行った」と回答した割合をあわせて 31%である。ここから、回答者の約 7 割は、間伐を十分に行えていない可能性がある。

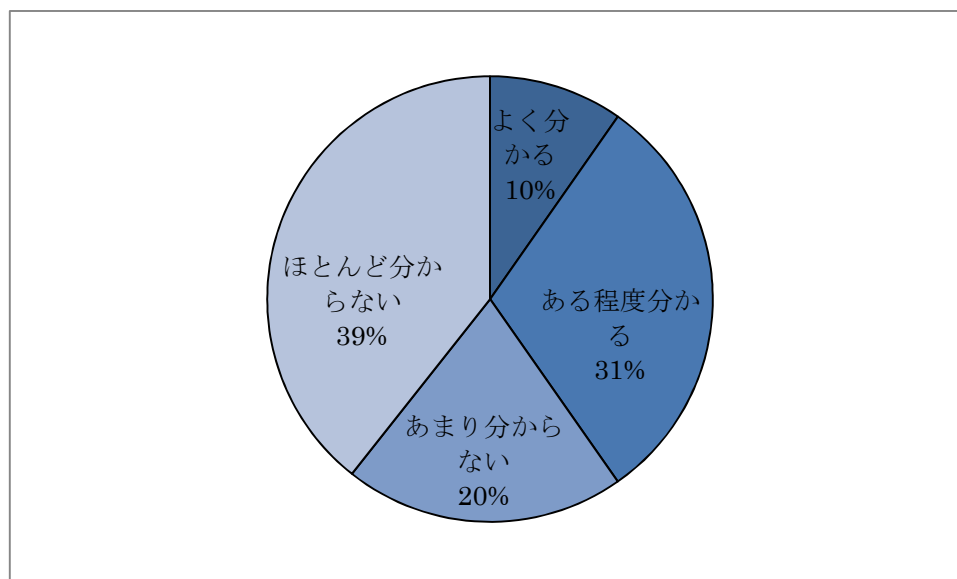
図 3 4 山林場所



山林場所		
	度数	パーセント (%)
よく分かる	75	23.2
ある程度分かる	127	39.3
あまり分からない	51	15.8
ほとんど分からない	70	21.7
合計	323	100.0

図 3 4 は、回答者のうち、所有している山林がある場所を認識している方の割合を示したグラフである。最も多い回答は、場所が「ある程度分かる」(39%) である。場所が「よく分かる」、「ある程度よく分かる」を合わせると、その割合は 62% となる。他方で、場所が「ほとんど分からない」、「あまり分からない」と回答した割合はあわせて 38% である。ここから、回答者の約 6 割は自身が所有している山林の場所を把握していると考えられる。

図 3 5 共有林場所

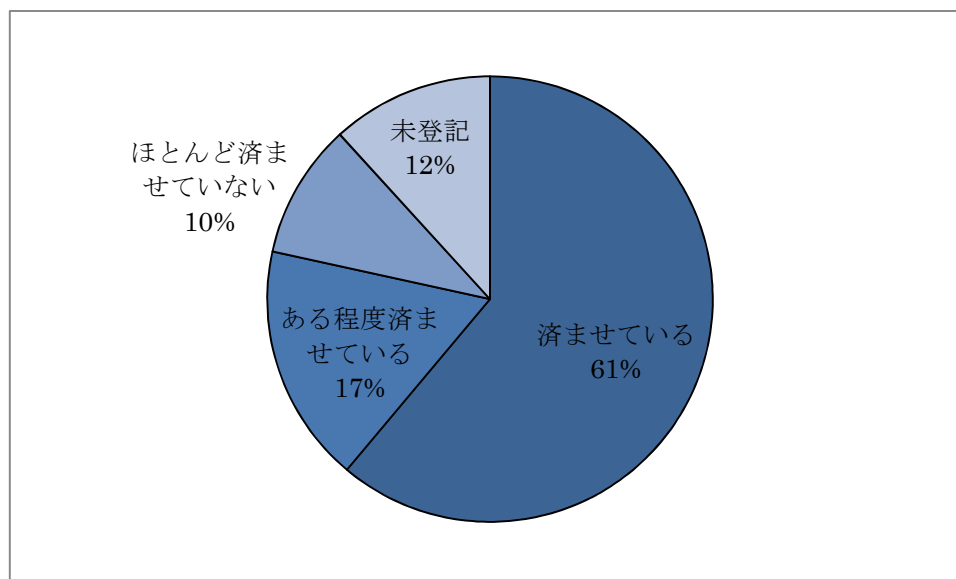


共有林場所

	度数	パーセント (%)
よく分かる	21	9.7
ある程度分かる	66	30.6
あまり分からない	44	20.4
ほとんど分からない	85	39.4
合計	216	100.0

図 3 5 は、回答者のうち、所有している共有林がある場所を認識している方の割合を示したグラフである。最も多い回答は、場所が「ほとんど分からない」(39%)である。場所が「ほとんど分からない」、「あまり分からない」と回答した割合はあわせて 59%である。他方で、場所が「よく分かる」、「ある程度よく分かる」を合わせると、その割合は 41%となる。ここから、回答者の 6 割は、自身が所有している共有林の場所を把握できていないことが分かる。

図 3 6 山林登記

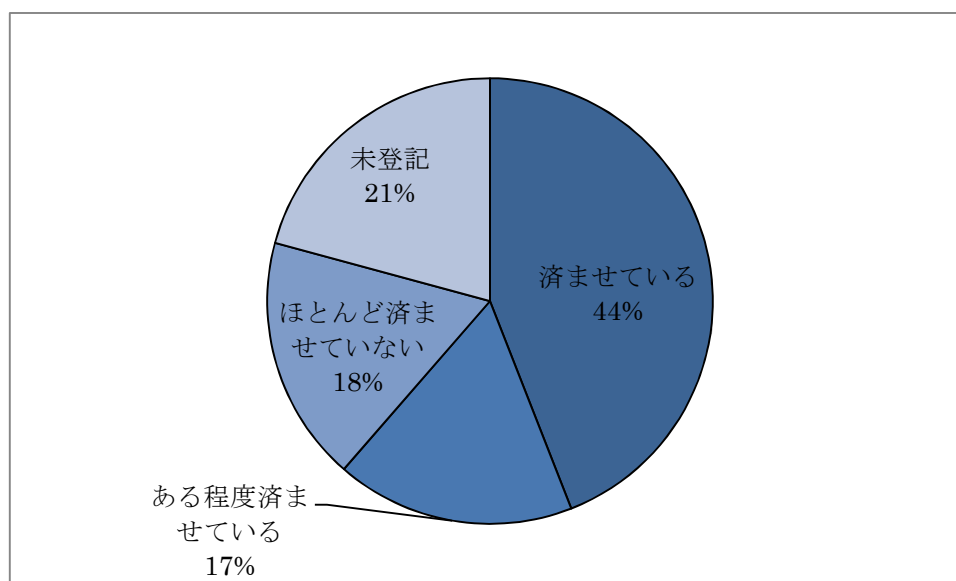


山林登記

	度数	パーセント (%)
済ませている	187	61.1
ある程度済ませている	53	17.3
ほとんど済ませている	30	9.8
未登記	36	11.8
合計	306	100.0

図 3 6 は、山林の所有者の山林の登記状況を示したグラフである。最も多い回答は、登記を「済ませている」(61%) である。登記を「済ませている」と「ある程度済ませている」を合わせると、その割合は 78%となる。他方で、登記を「済ませている」、「ほとんど済ませている」と回答した割合をあわせて 22%である。ここから、回答者の約 8 割は山林の登記を済ませていることが分かる。

図 3 7 共有林登記

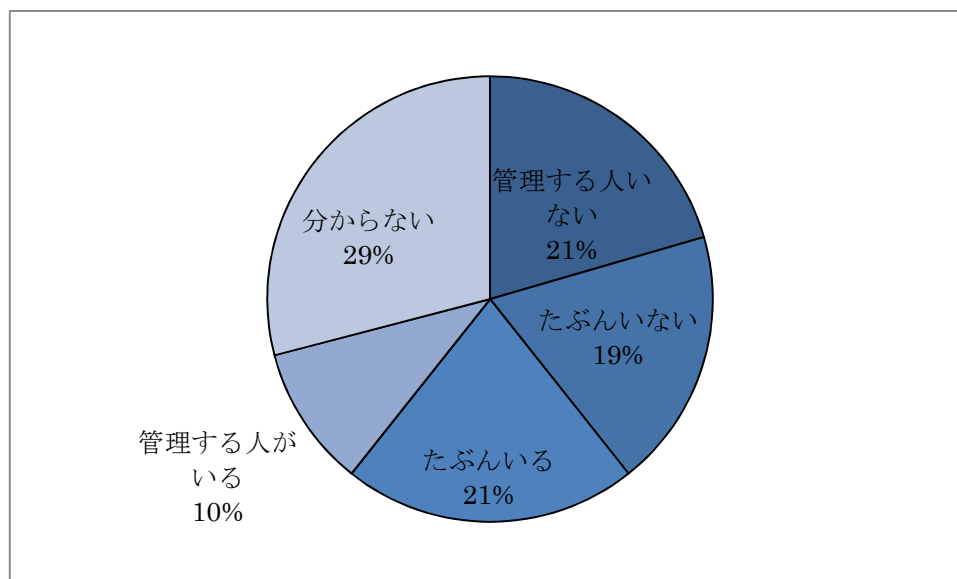


共有林登記

	度数	パーセント (%)
済ませている	89	44.1
ある程度済ませている	35	17.3
ほとんど済ませしていない	36	17.8
未登記	42	20.8
合計	202	100.0

図 3 7 は、共有林の所有者の共有林の登記状況を示したグラフである。最も多い回答は、登記を「済ませている」(44%) である。登記を「済ませている」と「ある程度済ませている」を合わせると、その割合は 61% となる。他方で、登記を「済ませしていない」「ほとんど済ませしていない」と回答した割合をあわせて 39% である。ここから、回答者の約 6 割は、登記を済ませていると考えられる。

図 3 8 共有林次期代表者

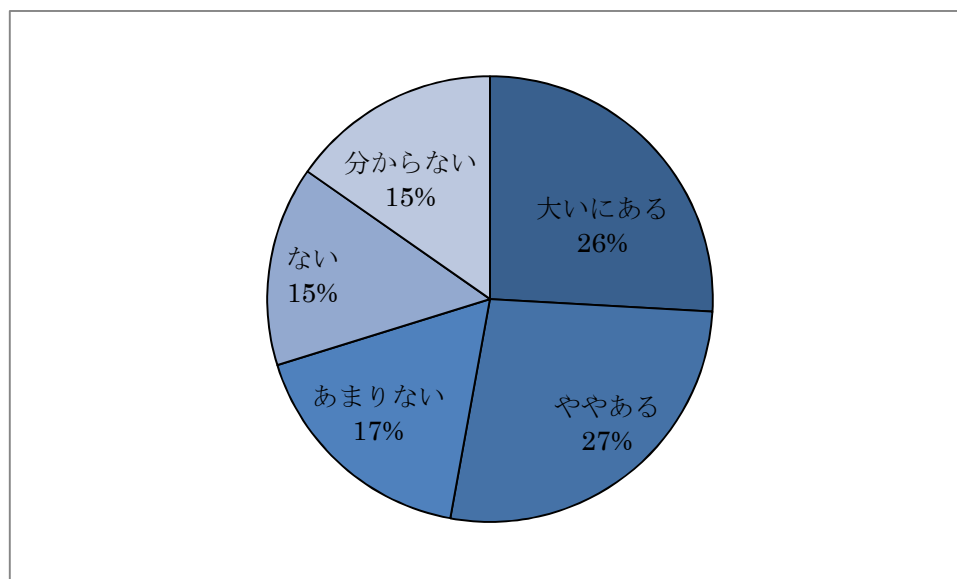


共有林次期代表者

	度数	パーセント (%)
管理する人いない	24	20.5
たぶんいない	22	18.8
たぶんいる	25	21.4
管理する人がいる	12	10.3
分からない	34	29.1
合計	117	100.0

図 3 8 は、共有林の代表者をしている回答者のうち、次期の代表者が決まっている方の割合を示したグラフである。回答者のうち、「分からない」と答えた割合が 29% で、最も大きい。また、「次期管理人がいる」、「たぶんいる」と回答した割合をあわせて 31% となる。他方で、「次期管理人がいない」、「たぶんいない」を合わせると、その割合は 40% となる。ここから、回答者の約 4 割には共有林の代表を引き継ぐ方がいないことが分かる。

図 3 9 今後も財産管理を行う意思の有無

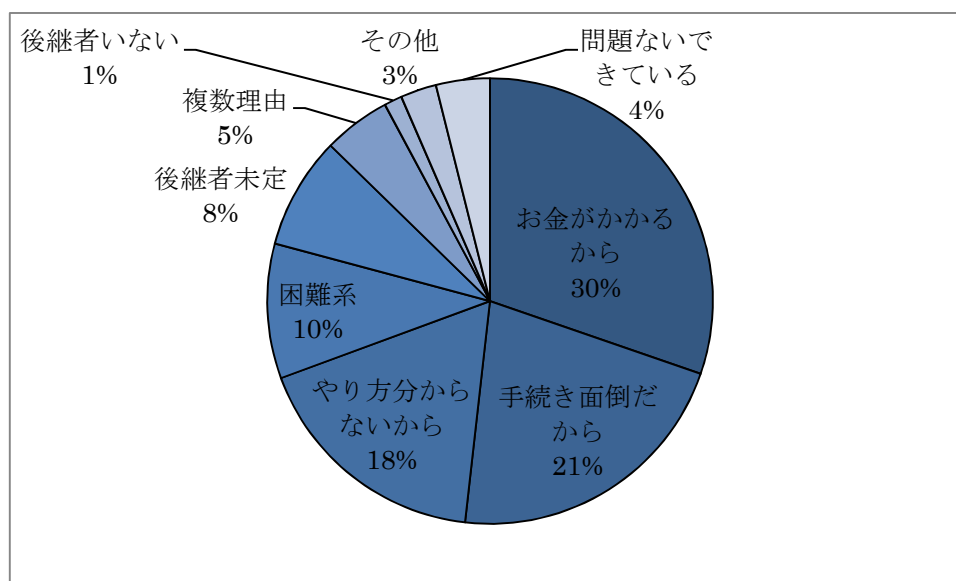


今後の財産管理の意思

	度数	パーセント (%)
大いにある	100	25.9
ややある	104	26.9
あまりない	67	17.4
ない	56	14.5
分からない	59	15.3
合計	386	100.0

図 3 9 は、自己所有の財産（土地、家屋など）を今後も管理していく意思の有無についての回答の分布を示したグラフである。最も多い回答は、今後も財産管理を行っていく気が「ややある」（27%）である。「大いにある」と「ややある」を合わせると、その割合は 53%となる。他方で、「ない」、「あまりない」と回答した割合をあわせて 22%である。ここから、回答者の半数が、今後も積極的に財産管理を行っていくつもりであることが分かる。

図40 財産管理が難しい理由

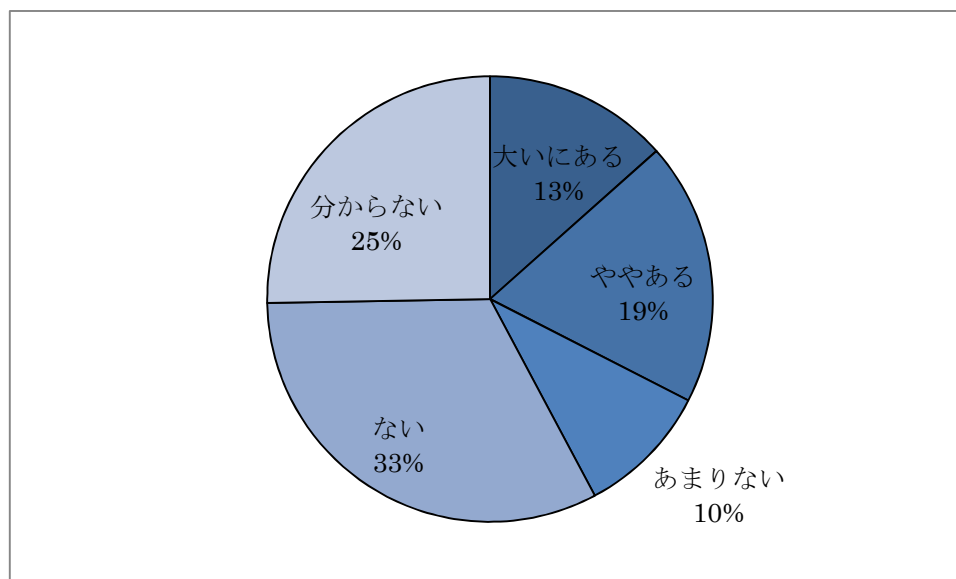


財産管理・理由

	度数	パーセント (%)
お金がかかるから	93	30.3
手続き面倒だから	66	21.5
やり方分からないから	54	17.6
困難系	30	9.8
後継者未定	25	8.1
複数理由	15	4.9
後継者いない	4	1.3
その他	8	2.6
問題ないできている	12	3.9
合計	307	100.0

図40は、財産を管理することを難しくさせている理由を示したグラフである。回答者のうち、「お金がかかるから」と回答した方が最も多く、その割合は30%である。次いで割合の大きいものから順に、「手続きが面倒だから」が21%、「やり方が分からないから」が18%である。ここから、町外にお住まいの方々が財産管理を行っていくうえで、複雑な手続きや、費用が大きな負担となっている可能性があるといえる。

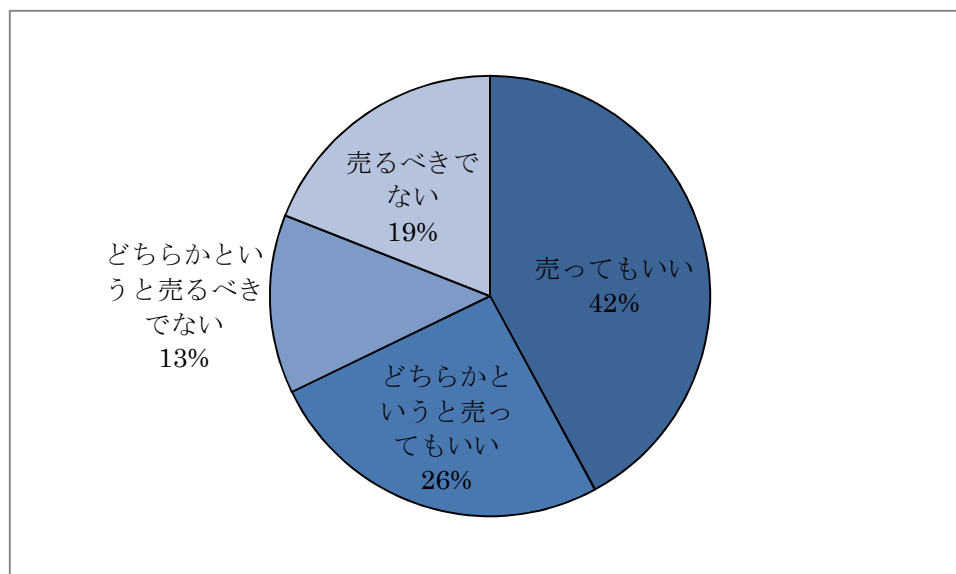
図 4 1 公的機関へ財産を寄付する意思の有無



財産寄付		
	度数	パーセント (%)
大いにある	50	13.4
ややある	71	19.1
あまりない	36	9.7
ない	121	32.5
分からない	94	25.3
合計	372	100.0

図 4 1 は、町などの公的機関に土地などの財産を寄付する意思の有無を示したグラフである。回答者のうち、寄付する意思が「ない」と回答した割合は 33%であり、最も大きい。寄付する意思が「ない」と「あまりない」を合わせると、43%の回答者は、今後も自身の手で財産管理を続けていく。あるいは、財産を売却することを考えている可能性がある。他方で、寄付する意思が「大いにある」と「ややある」を合わせると、32%の回答者は公的機関に財産を寄付したいという希望を持っていることが分かる。また、回答者の 25%は「分からない」と回答している。ここから、回答者の約 3 割は、財産の公的機関への寄付について積極的な考えを持っていることが分かる。

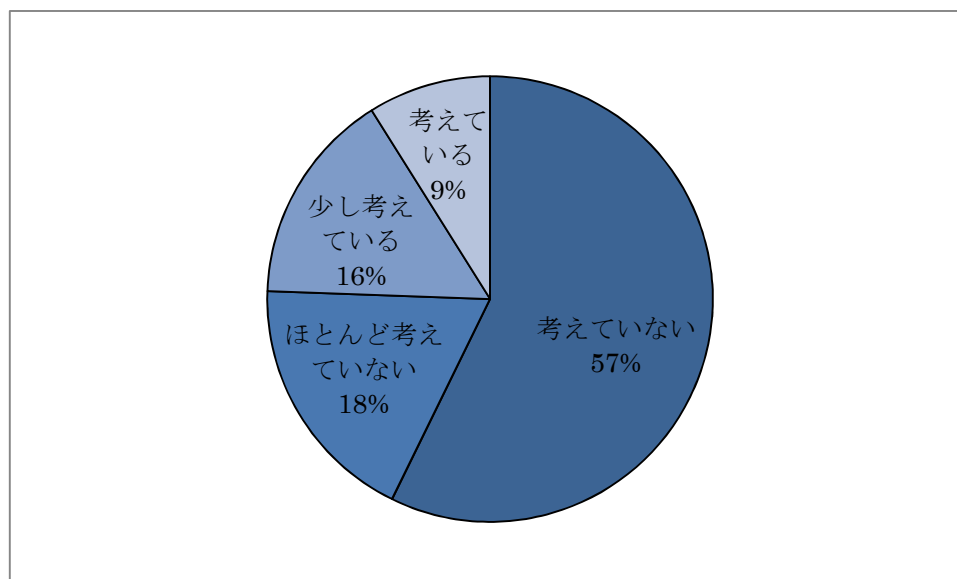
図 4 2 価値観



価値観		
	度数	パーセント (%)
売ってもいい	157	42.1
どちらかというとも売ってもいい	96	25.7
どちらかというとも売べきでない	49	13.1
売べきでない	71	19.0
合計	373	100.0

図 4 2 は、土地の所有者が財産に対して、どのような考え方をしているのかを示したグラフである。回答者のうち「財産なのだから、売ってもいい」と回答した割合は 42% であり、最も大きい。「売ってもよい」と「やや売ってもよい」を合わせると、その割合は 68% となる。他方で、「先祖伝来のものだから、自分の代で売るべきでない」、「やや売るべきでない」と回答した割合をあわせて 32% である。ここから、回答者の約 7 割は、土地財産を売買可能な財とみなしているといえる。

図 4 3 日南町への U ターン意思

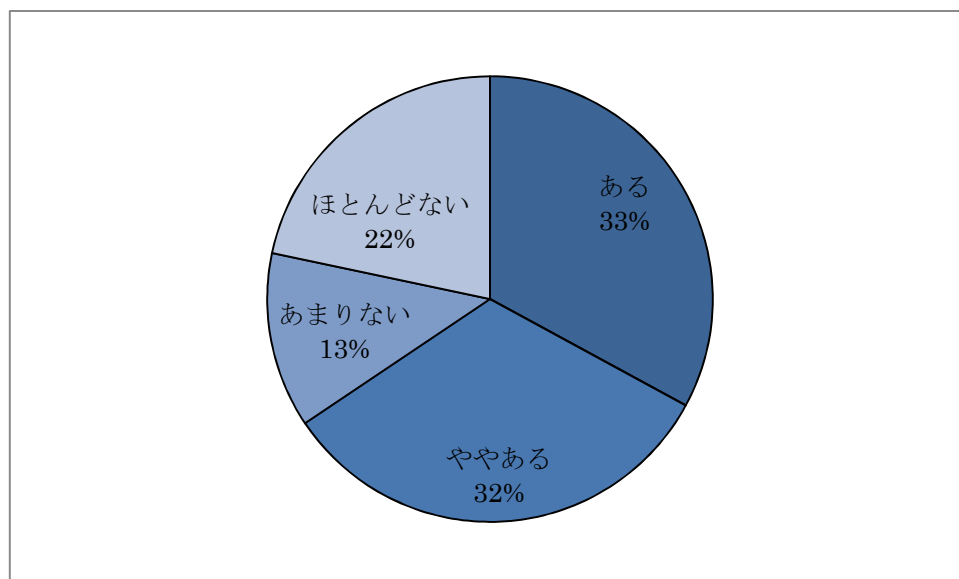


Uターン希望

	度数	パーセント (%)
考えていない	225	57.3
ほとんど考えていない	72	18.3
少し考えている	61	15.5
考えている	35	8.9
合計	393	100.0

図 4 3 は、日南町に U ターンする意思の有無を示したグラフである。最も多い回答は、U ターンを「考えていない」(57%) である。「考えていない」と「ほとんど考えていない」を合わせると、その割合は 75% となる。他方で、U ターンを「考えている」と「少し考えている」を合わせると、その割合は 25% となる。ここから、回答者の約 3 割が日南町への U ターンを考えていることが分かる。

図 4 4 日南町との交流

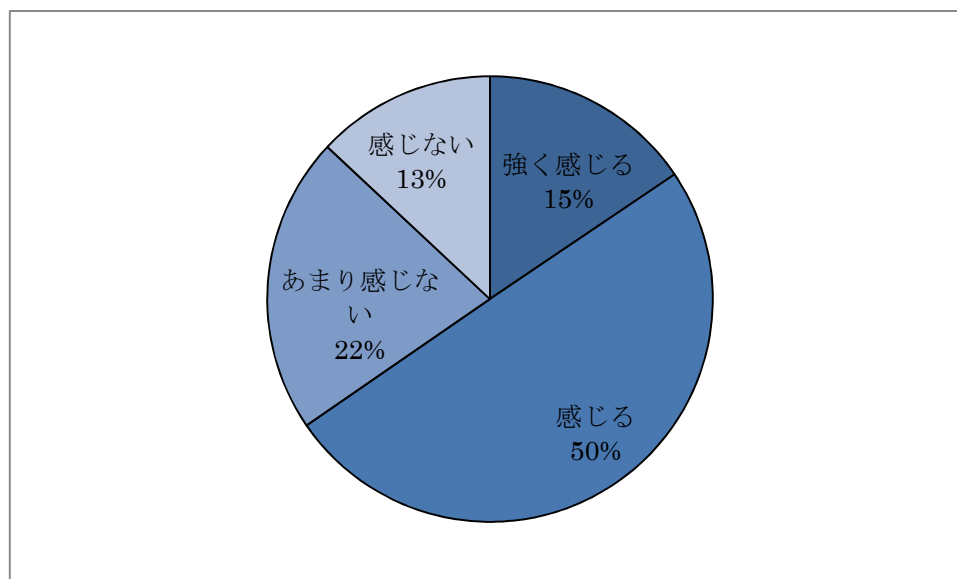


南部町との交流

	度数	パーセント (%)
ある	132	32.9
ややある	131	32.7
あまりない	51	12.7
ほとんどない	87	21.7
合計	401	100.0

図 4 4 は、日南町にお住まいの方々との交流の有無を示したグラフである。最も多い回答は、交流が「ある」(33%) である。交流が「ある」、「ややある」を合わせると、65%の回答者は日南町との交流があることになる。他方で、交流が「ほとんどない」、「あまりない」と回答した割合をあわせて 42% である。ここから、約 6 割の回答者が町外に住みながらも、日南町内の人付き合いを続けていることがわかる。

図 4 5 日南町への愛着・義務感

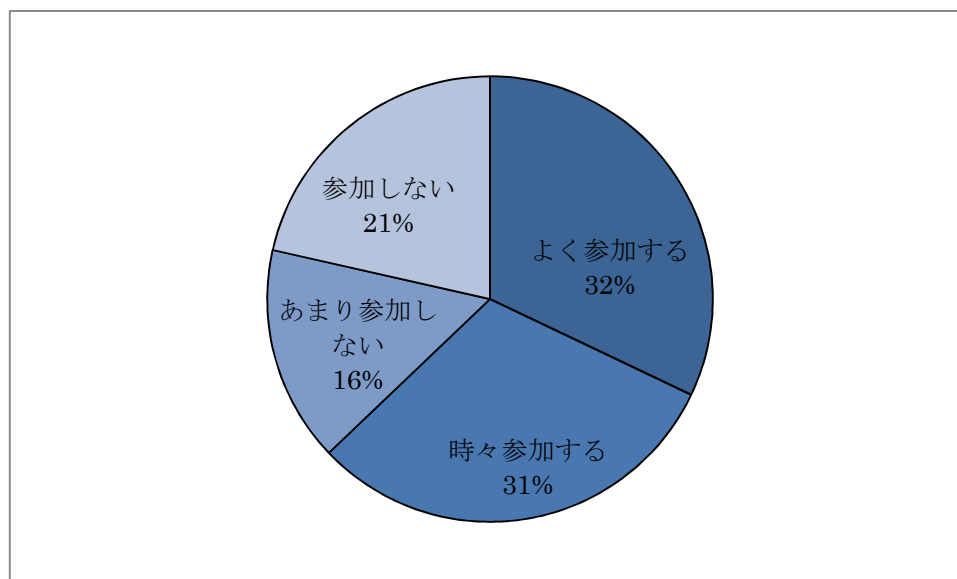


南部町への愛着・義務感

	度数	パーセント (%)
強く感じる	62	15.5
感じる	199	49.9
あまり感じない	86	21.6
感じない	52	13.0
合計	399	100.0

図 4 5 は、回答者の日南町に対する愛着や義務感の有無を示したグラフである。回答者のうち、愛着や義務感を「感じる」と回答した割合は 50%であり、最も大きい。愛着や義務感を「強く感じる」と「やや感じる」と合わせると、その割合は 65%となる。他方で、愛着や義務感を「感じない」、「あまり感じない」と回答した割合はあわせて 35%である。ここから、約 6 割の回答者が愛着や義務感を感じていることが分かる。

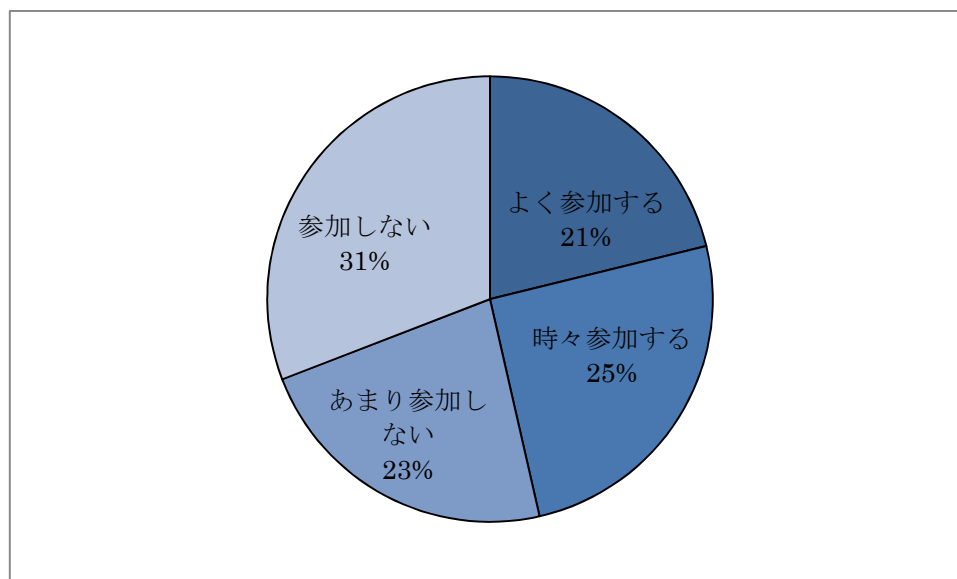
図 4 6 自治会行事への参加



自治会行事		
	度数	パーセント (%)
よく参加する	127	32.1
時々参加する	122	30.8
あまり参加しない	62	15.7
参加しない	85	21.5
合計	396	100.0

図 4 6 は、回答者の現在の居住地での自治会活動への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、自治会活動に「よく参加する」(32%) である。自治会活動に「参加する」、「ときどき参加する」を合わせると、63%の回答者が自治会活動に参加していることが分かる。他方で、自治会活動に「参加しない」、「あまり参加しない」と回答した割合は 37%である。ここから、回答者の約 6 割が、現在の居住地での自治会活動に参加していることが分かる。

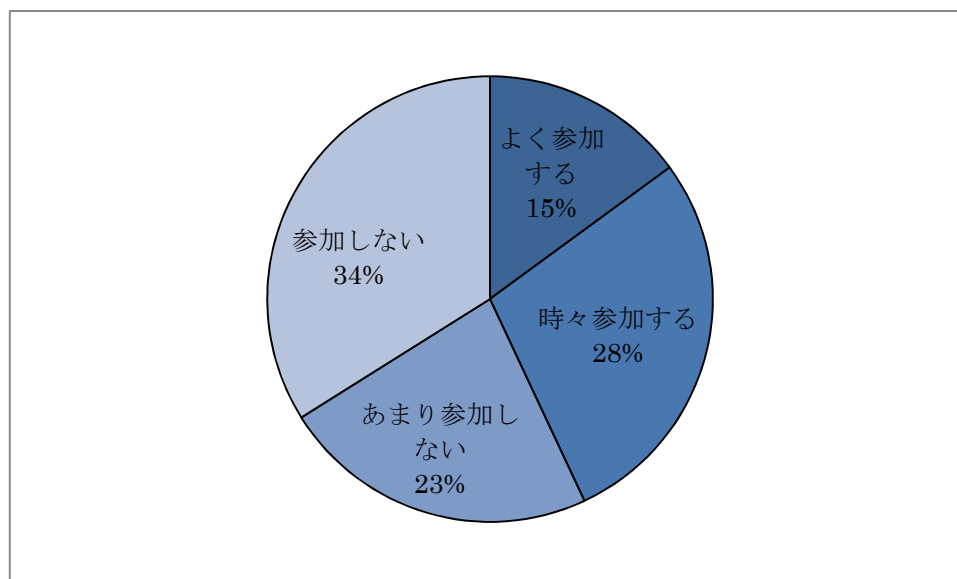
図 4 7 サークルへの参加



サークル		
	度数	パーセント (%)
よく参加する	83	21.2
時々参加する	99	25.3
あまり参加しない	89	22.7
参加しない	121	30.9
合計	392	100.0

図 4 7 は、回答者のサークル活動（スポーツ、趣味、文化など）への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、サークル活動に「参加しない」（31%）である。サークル活動に「参加しない」と「あまり参加しない」を合わせると、その割合は 54%となる。他方で、サークル活動に「参加する」、「ときどき参加する」を合わせると、その割合は 46%となる。ここから、半数近くの回答者は、サークル活動に参加していることが分かる。

図 4 8 ボランティア活動への参加



ボランティア		
	度数	パーセント (%)
よく参加する	59	14.9
時々参加する	111	28.1
あまり参加しない	91	23.0
参加しない	134	33.9
合計	395	100.0

図 4 8 は、回答者のボランティア活動（福祉、環境美化など）への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、ボランティア活動に「参加しない」（34%）である。ボランティア活動に「参加しない」と「あまり参加しない」を合わせると、その割合は 57%となる。他方で、ボランティア活動に「参加する」と「ときどき参加する」を合わせると、その割合は 43%となる。